

【授業科目名】 日本国憲法		【授業の種類】 講義	【担当教員名】 藤原 廣宣
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 2年後期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 1. 知識面 憲法上の諸制度と、それを支える概念(思想)を総合的に理解する。 2. 表現 一定ごとに、理解した諸制度や概念を、レポートにまとめ理解を深める。			
【授業の概要】 国家の三要素の一つに、統治権がある。統治権という権力がなければ、国家は存在し得ない。しかし、この統治権をにぎる国家権力は、歴史的にみて、それを乱用してきた歴史がある。憲法は、この濫用しがちな国家権力から国民を守ることを使命としている。講義では、憲法がこの付託に応えるために導入している諸制度について平易に解説する。			
【授業計画】 第 1回:オリエンテーション (受講者に望むこと・受講上の注意点等) 第 2回:社会契約説 第 3回:法の支配 立憲主義 第 4回:大日本帝国憲法と、その教訓 第 5回:日本国憲法の成立過程と、その特徴 第 6回:「日本国憲法誕生」(DVD鑑賞) 第 7回:基本的人権の尊重1 個人の尊厳 第 8回:基本的人権の尊重2 自由権① 第 9回:基本的人権の尊重3 自由権② 第10回:基本的人権の尊重4 社会権① 第11回:基本的人権の尊重5 社会権② 新しい人権① 第12回:基本的人権の尊重6 新しい人権② 公共の福祉 第13回:平和主義 国際協調主義、戦争放棄と自衛戦争 第14回:国民主権 間接民主制と選挙 第15回:まとめ 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】 憲法読本 第4版 杉浦泰雄 岩波書店			
【参考書・参考資料等】			
【学生に対する評価】 定期考査60%、レポート提出等40%とする。			

【授業科目名】 情報機器の操作		【授業の種類】 講義	【担当教員名】 瀧波創造・大西光恵
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 2年前期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 保育現場で利用する情報リテラシー(情報活用能力)を身につけることを目標とする			
【授業の概要】 教育現場で広く使用されている、Word、Excel、PowerPointを中心に応用的な分野にまで踏み込んだ学習を想定している。検定試験の時期には、その対策として模擬問題にも取り組む。 その他、適宜、知的財産権・個人情報・ネット上のセキュリティー等の問題についても取り上げる。 なお、進捗・習熟度等の状況により、授業内容を変更することもある。			
【授業計画】 第 1回：オリエンテーション(受講者に望むこと・受講上の注意点等) Wordの基礎 第 2回：Word：書式設定・公的な文書(通信文書)の知識と作成 第 3回：Word：表現力を高める数々の機能① 第 4回：Word：表現力を高める数々の機能② 第 5回：Word：表現力を高める数々の機能③ 第 6回：Excel：数式を使って計算をする、編集機能、関数の基礎 第 7回：Excel：数式を使って計算をする、よく使う関数Excel 第 8回：Excel：関数応用、ソート・グラフの基本 第 9回：Excel：さまざまな関数と図形の活用 第10回：Excel・PowerPoint：オートシェイプ・イラスト等の活用 第11回：グループ研究① PowerPointや画像作成ソフトを活用した作品製作 第12回：グループ研究② PowerPointや画像作成ソフトを活用した作品製作 第13回：グループ研究③ PowerPointや画像作成ソフトを活用した作品製作 第14回：グループ研究④ PowerPointや画像作成ソフトを活用した作品製作 第15回：グループ研究⑤ 作品の仕上げと発表			
【テキスト名・著者名・出版社名】 ※1年次に購入したテキストをそのまま使用します。新たに購入しません 30時間アカデミック 情報リテラシー Office2013 Windows8対応			
【参考書・参考資料等】 授業中に適宜資料を配付する			
【学生に対する評価】 毎時間取り組む実習課題50% 課題提出は毎時間行う。 グループ研究作品評価20% グループ発表相互評価30% テキスト以外にUSB接続のフラッシュメモリー(4GB程度)を用意する			

【授業科目名】 図画工作		【授業の種類】 演習	【担当教員名】 藤本 元美
【授業の回数】 30回	【時間数】 60時間	【開講学年・時期】 2年通年	【必修・選択】必修 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 ①図画工作に関心を持ち、保育の実践的展開を支える基礎的技能を習得する。 ②幼児が楽しく関わる多様な造形表現活動を体得する。 ③保育実践に必要な教材・教具について理解を深め、扱い方に習熟する。			
【授業の概要】 ・「表現」領域の理念や内容について理解を深める。 ・造形表現活動のための基礎的技能や支援の手立てを習得する。 ・造形的な感覚や感性を豊かにし、表現や鑑賞の能力を身につけ、保育の専門性を深める。			
【授業計画】 第 1回：図画工作・造形活動 前期オリエンテーション 第 2回：材料・用具の扱い方 特性や扱い方を理解する。 第 3回：材料・用具の扱い方 特性を理解し表現する。 第 4回：色彩について 色の基礎的知識を理解する。 第 5回：幼児の発達段階 描画の発達段階を理解する。 第 6回：壁面を飾る① 壁面装飾のための下絵を描く。 第 7回：壁面を飾る② 素材の効果的な活用をする。 第 8回：壁面を飾る③ 壁面全体を仕上げる。 第 9回：お弁当を作る① 身近な材料を使って作る。 第10回：お弁当を作る② 身近な材料を使って作る。 第11回：七夕飾りを作る グループで協力して作る。 第12回：手作りおもちゃ 身近な材料を生かして作る。 第13回：粘土でつくる① 紙粘土で立体作品を作る。 第14回：粘土でつくる② 紙粘土で立体作品を作る。 第15回：まとめ 前期授業内容のまとめ 第16回：図画工作・造形活動 後期オリエンテーション 第17回：紙の造形① 紙を主材料にした立体造形 第18回：紙の造形② 紙を主材料にした立体造形 第19回：秋を表現する グループで協力して作る。 第20回：絵を描く スクラッチ絵画で表現する。 第21回：絵を描く スクラッチ絵画で表現する。 第22回：手作りおもちゃ 動くおもちゃを手作りする。 第23回：版画をつくる① 紙版画の版を作る。			

第24回：版画をつくる② インクをつけて刷り取る。  
第25回：ステンドグラス① テーマを決めて下絵を描く。  
第26回：ステンドグラス② 下絵の線をカッターで切る。  
第27回：ステンドグラス③ 切った所にセロファンを貼る。  
第28回：ステンドグラス④ 画面全体を仕上げる。  
第29回：絵手紙を描く 感謝の気持ちを表現する。  
第30回：まとめ 後期授業内容のまとめ

【テキスト名・著者名・出版社名】

必要に応じてプリントを配布する

【参考書・参考資料等】

【学生に対する評価】

表現した作品を評価する。

【授業科目名】 体育		【授業の種類】 演習	【担当教員名】 井原 一久
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 2年後期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 様々な運動プログラムを習得し、運動の目的、教育的めあてを理解する。 安全かつ、楽しい運動プログラムを体系立てた指導案を作成し、工夫した指導法を習得する。			
【授業の概要】 「幼児期運動指針」に基づき、幼児期の身体の発育発達に応じた運動遊び体験し、そのポイントや基礎知識を習得する。 授業で学んだ運動プログラムを組み立て、指導案を作成し、実際の指導実習を通じて、実践方法を学習する。			
【授業計画】 第1回：ガイダンス オリエンテーション（受講者に望むこと・受講上の注意点等） 第2回：コーディネーション運動 幼児でもあきずに取り組める調整力向上の指導法の実践 第3回：器械体操① マット・とびばこ・鉄棒・平均台の指導の実践 第4回：器械体操② マット・とびばこ・鉄棒・平均台の補助実習 第5回：運動会種目 運動会で行う演技系種目 親子体操 パラバルーンの実践 第6回：リズム系運動 リズム化能力 指導演習 第7回：リズム系運動 リズム体操 指導演習 第8回：リズム系運動 リズム体操 指導演習 第9回：跳動作 なわとび（短縄・大縄） ジャンプを取入れた運動遊びの実践 第10回：運動手法 イニシアチブゲーム・障害物あそび・サーキットあそびなど 第11回：幼児体育指導法① なわ運動指導実習 第12回：幼児体育指導法② ボール運動指導実習 第13回：幼児体育指導法③ 運動会種目指導実習 第14回：投動作とリフレクション ボール操作 ドッチボールの実践 本教科を通じた学びのヒアリング 第15回：ボールゲームとリフレクション ボールを使った空間認知能力育成 サッカーほか本教科を通じた学びのヒアリング			
【テキスト名・著者名・出版社名】 必要に応じてプリント提出			
【参考書・参考資料等】			
【学生に対する評価】 リフレクションにおける体育指導における理解度のヒアリング（50%） 実技（50%）			

【授業科目名】 生活		【授業の種類】 講義	【担当教員名】 藤田千波・細川明子
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 2年前期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】			
<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもを取り巻く現代社会の環境を理解し、家庭や幼稚園・保育所、地域等において、子どもが直面している問題を認識する。</li> <li>幼児の生活を豊かにし、人間関係を深めることがどのような意義をもつのか理解する。</li> <li>幼児の生活や遊びを通して、小学校以降の生活や学習の基盤をつくることを理解する。</li> </ul>			
【授業の概要】			
<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもは生活の場である家庭や幼稚園・保育園だけでなく、地域社会における身近な人や環境などの関わり、どのように人格の基礎を育てていくか学ぶ。</li> <li>子どもの視点から日常生活を理解し、子どもの道徳性や規範意識を育むためのプロセスと必要な知識について学習する。</li> </ul>			
【授業計画】			
第 1回：授業生活について：オリエンテーション(受講者に望むこと・受講上の注意点等)			
第 2回：乳幼児の生活とは：乳幼児の生活を取り巻く環境について			
第 3回：子どもの家庭生活：家庭生活や家族関係について			
第 4回：子どもの社会生活：地域や園との関わりから育つもの			
第 5回：子どもの心の発達：愛着行動と心の基地を育むことの大切さ			
第 6回：芽生えの時期としての幼児期①：幼稚園教育要領 第1章 総則から			
第 7回：芽生えの時期としての幼児期②：生活の流れの中で、直接的・具体的な体験を通し、 人格形成の基礎を培う			
第 8回：芽生えを培うための生活経験：環境に関わり、好奇心や探究心を育てる中で思考力を 育む			
第 9回：子どもの遊び：さまざまな遊びを通して、子ども達が学ぶもの			
第10回：子どもの生活リズム：幼児の生活リズムと基本的な生活習慣の確立と関係			
第11回：小学校とのつながり①：小学校教育の特徴			
第12回：小学校とのつながり②：保育内容と小学校の教育内容のつながり			
第13回：小学校とのつながり③：スタートカリキュラムについて			
第14回：小学校とのつながり④：特別な配慮を必要とする子どもの就学指導の現状			
第15回：小学校とのつながり⑤：保・幼・小の連携について考える			
定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】			
必要に応じてプリントを配布する			
【参考書・参考資料等】			
幼稚園教育要領解説 子ども学講座1 子どもと生活 (一藝社)			
【学生に対する評価】			
定期試験 60% グループワーク時のワークシート 40%			

【授業科目名】 保育原理Ⅱ		【授業の種類】 講義	【担当教員名】 濱名 潔
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 2年前期	【必修・選択】 選択必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 保育者が専門職であることに加えて、いくつかの場面の保育者の専門性について理解する。 そして、保育の専門性を他者に伝えること難しさと重要性を知る。			
【授業の概要】 現場に出ると、自身の保育について保護者や同僚に説明する場面がたびたびあります。 そんな時、「私は〇〇と思います」と感じたまま伝えるだけで相手は納得するのでしょうか？保育者の専門性は外から見ただけではわかりにくい、高度な知識や技術が含まれています。保護者や同僚から信頼される保育者になるには「〇〇と思います」ではなく、「□□で△△だから〇〇と思います」と理論に基づき、自身の保育援助・保育行為を意識して相手に分かる言葉で説明する必要があります。本講義では「保育者の専門性とは何か？」を中心に考え、少しでも自分の言葉で説明できるようになれることを目指します。			
【授業計画】 第 1回：オリエンテーション（受講者に望むこと・受講上の注意点等） 第 2回：子ども理解はなぜ大切か 子ども理解の大切さについて知る。子どもの見方を交流させることで子ども理解が広がることを感じる。 第 3回：子どもの発達段階を理解することの大切さ 発達段階を理解することの大切さを知る。「発達」と「育ち」の違いを知る。 第 4回：けんか場面の援助 けんかを通した子どもの成長。保育者は子どものけんかにどのように関わるか。 第 5回：ごっこ遊びの援助 ごっこ遊びの大事さを知る。ルールのある遊びを教えることの難しさ。 第 6回：幼稚園教育要領等に基づく指導 幼稚園教育要領等に対する理解を深める。また指導計画、保育課程の重要性を知る。 第 7回：環境構成と保育援助、保育方法論 環境構成の基本を理解する。また、様々な保育方法論や保育援助の理解を深める。 第 8回：新任保育者としての経験 現場に出るにあたり、新任保育者が出会う課題について考える。 第 9回：行事に対する考え 行事に対する考え方、行事の進め方、行事を通した子どもの育ちを考える。 第10回：保育援助としての「見守り」 「見守る」援助について考える。ワークショップ。 第11回：食事の援助と食育 食事の援助について知る。食育について考える。 第12回：片付け場面の援助 片づけをなぜ行うのかを考える。保育者の片付け場面の援助について考える。 第13回：子どもと話し合いながら進める保育 なぜ子どもと保育者が話し合いながら進める保育が大切かを考える。対話のあり方を考える。 第14回：保護者対応、職員間の連携を考える 保護者対応についてワークショップを行い体験的な理解を深める。職員同士の円滑な連携がとれるような在り方について理解を深める。 第15回：まとめ これまでの講義のまとめ。試験について。 定期試験			

【テキスト名・著者名・出版社名】

使用しない（授業中に資料を配布する）

【参考書・参考資料等】

平成30年版 幼稚園教育要領解説

【学生に対する評価】

授業中のレポート50%、定期試験50%

【授業科目名】 保育原理Ⅱ		【授業の種類】 講義	【担当教員名】 村田 健治
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 2年前期	【必修・選択】 選択必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 ・子どもの育ちについて知り、その育ちを支援する保育の意義や保育者の役割を理解する。 ・子どもを取り巻く保育や幼児教育の現状について学び、保育や幼児教育についての長期的な視野を身につける。			
【授業の概要】 改訂された保育所保育指針等の基本を理解し、保育実践を進めるうえでの具体的な保育方法、幼児教育方法を学ぶ。その際の保育者の指導・援助のポイントについて知る。また、子どもを取り巻く社会の変化を考慮しつつ、子どもにとって望ましい保育のあり方を考える。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション（受講者に望むこと・受講上の注意点等） 第2回：幼稚園教育要領、保育所保育指針について① 幼稚園教育要領、保育所保育指針改定の要点を学ぶ 第3回：幼稚園教育要領、保育所保育指針について② 改訂に伴うこれからの幼児教育・保育の方向性を学ぶ 第4回：子ども・子育て支援新制度① 少子化及び幼保一体化の現状と課題について学ぶ 第5回：子ども・子育て支援新制度② 教育保育施設と地域型保育施設について学ぶ 第6回：子どもを取り巻く自然環境 身近な自然と子どもの遊びについて考える 第7回：保育実践（自然環境）① 自然の中の身近な植物を探そう（オリジナル植物図鑑を作る） 第8回：遊び活動の指導方法・援助①「遊び」から学べる力について考える 第9回：遊び活動の指導方法・援助②「遊び」から学べる力を育む指導方法、援助について学ぶ 第10回：ワークショップ：ボードゲーム ボードゲームを疑似体験することを通して、子どもの育つ力を考える 第11回：早期教育の問題点と課題 早期教育の問題点と課題について考える 第12回：諸外国の保育・幼児教育 保育・幼児教育の国際的発展の動向について学ぶ 第13回：子どもを守る安全な環境 災害が起こった時の園及び保育者の対応について考える（震災DVD） 第14回：保育実践（自然環境）② 「オリジナル植物図鑑」の作品発表 第15回：まとめ これまでの講義のまとめ、試験について 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】 使用しない。適宜プリントを配布する			
【参考書・参考資料等】 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領			
【学生に対する評価】 レポート提出、課題提出50%、定期試験50%			

【授業科目名】 教育原理		【授業の種類】 講義	【担当教員名】 濱名 陽子
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 2年前期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 教育の基本的概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想においてそれらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。			
【授業の概要】 「教育」という営みに関して基本的な知識を獲得したうえで、「教育とはなにか」ということに関する自分なりの考えを確立する。そのために、教育思想に関する基本的な理解、教育の歴史に関する基本的な理解、教育の理念・目的に関する基本的な理解、生涯学習と社会教育に関する基本的な理解、現代の教育問題に関する基本的な理解を行う。授業の中で2回、教育のトピックについてのグループワークを行うが、その際には学んだ学習内容に基づき自分の意見を明確にし、グループの他の学生と意見交換を行う。			
【授業計画】 第 1回：オリエンテーション 第 2回：人間形成と教育 (1) 人間の育ちの特徴と教えるという行為 第 3回：人間形成と教育 (2) 人間形成と教育との関係 第 4回：教育の思想 (1) 西洋における教育思想① 第 5回：教育の思想 (2) 西洋における教育思想② (ペスタロッチ、ヘルバルト、フレーベル) 第 6回：教育の思想 (3) 西洋における教育思想③ (モンテッソーリ、デューイ、デュルケム) 第 7回：教育の思想 (4) 日本における教育思想① (貝原益軒、中江藤樹、伊藤仁斎、荻生徂徠、広瀬淡窓、本居宣長) 第 8回：教育の思想 (5) 日本における教育思想②(吉田松陰、緒方洪庵、福沢諭吉、沢柳政太郎、大正自由主義教育の学校創設者) 第 9回：教育の理念 (1) 日本では教育理念・目的はどのように定められているか 第10回：教育の理念 (2) 各学校の教育理念・目的はどのようになっているか 第11回：現代社会と教育 (1) 幼児教育と初等中等教育の現状 第12回：現代社会と教育 (2) 日本の教育制度の歴史：明治維新前後から現代までの学校 第13回：現代社会と教育 (3) 生涯学習と社会教育：生涯学習の理念と日本の社会教育の現状 第14回：現代社会と教育 (4) 主な教育問題に関する基本的な理解 第15回：まとめ 「教育とは何か」に関するまとめ 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】 使用しない。			
【参考書・参考資料等】 授業中にワークシートと資料を配布する。			
【学生に対する評価】 定期試験 (50%)、グループワーク時のワークシート (30%)、通常ワークシート (20%)			

【授業科目名】 相談援助		【授業の種類】 演習	【担当教員名】 山本 晴彦
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 2年後期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 1. 相談援助の概要について理解する。 2. 相談援助の方法と技術について理解し、説明ができる。 3. 相談援助の具体的展開について理解する。			
【授業の概要】 保育士には保護者支援の役割が求められている。そのためには、子ども家庭福祉や社会福祉の知識だけでなく、相談援助の方法と技術の習得が必要不可欠である。 相談援助の理論や意義・機能、過程について説明し、事例や演習を通して相談援助の技術を身に付けられるようにする。			
【授業計画】 第 1回：相談援助の原則           バイスティックの7つの原則 第 2回：相談援助の理論（1）   ソーシャルワークの一般理論、ジェネラリスト・ソーシャルワーク 第 3回：相談援助の理論（2）   ソーシャルワークの実践モデル 第 4回：相談援助の理論（3）   ソーシャルワークの展開モデル 第 5回：相談援助の意義と機能   ソーシャルワークの定義 第 6回：相談援助とソーシャルワーク（1）   ソーシャルワークの目的、価値、展開過程、倫理 第 7回：相談援助とソーシャルワーク（2）   ソーシャルワークの技術 第 8回：相談援助の方法と技術（1）   相談援助の対象・過程 第 9回：相談援助の方法と技術（2）   面接の技術 第10回：相談援助の方法と技術（3）   かかわり技術 第11回：相談援助の方法と技術（4）   グループワークについて 第12回：相談援助の方法と技術（5）   さまざまなアプローチ1 第13回：相談援助の方法と技術（6）   さまざまなアプローチ2 第14回：相談援助の具体的展開   計画・記録・評価、関係機関との協働、多様な専門職と連携 第15回：事例分析、まとめ   社会資源、「子ども虐待の予防と対応」の事例 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】 社会福祉（新 保育士養成講座 第4巻）（1年次「社会福祉」のテキストを使用） 新 保育士養成講座編纂委員会 全国社会福祉協議会出版部			
【参考書・参考資料等】 なし			
【学生に対する評価】 定期試験 60%、課題提出 30%、小テスト 10%			

【授業科目名】 社会的養護Ⅱ		【授業の種類】 講義	【担当教員名】 池永 浩造
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 2年前期	【必修・選択】 選択必修
【授業の到達目標及テーマ】【目標】 社会的養護としての児童福祉施設における入所児への支援活動の実際から、必要な知識や技術、指導方法を学習し理解することで、児童福祉施設現場で十分に通用する施設保育士としての専門性を身につけていく。			
【授業の概要】 本授業では、「社会的養護Ⅰ」の学習を踏まえ、児童福祉施設の入所児が抱える様々な養護問題や障がいなどの課題について、またその子どもがもつ家庭的背景等を視野に入れながら、各児童福祉施設の目的や役割、機能から具体的実践的な支援や援助につて、その内容や方法を理解する。 (講義以外に、「ビデオ視聴」「調査と評価」などの学習方法を用いて授業を行っていく)			
【授業計画】 第 1 回：社会的養護の体系① オリエンテーション / 社会的養護での施設養護と家庭的養護 第 2 回：社会的養護の体系② 施設における家庭的養護と家庭養護（里親） 第 3 回：社会的養護の実施① 家庭に問題のある子どもの施設・乳児院 第 4 回：社会的養護の実施② 家庭に問題のある子どもの施設・児童養護施設 第 5 回：社会的養護の実施③ 家庭に問題のある母子の施設・母子生活支援施設 第 6 回：社会的養護の実施④ 心身に障害のある子どもの施設・障害児入所施設 第 7 回：社会的養護の実施⑤ 情緒に課題を抱える子どもの施設・児童心理治療施設 第 8 回：社会的養護の実施⑥ 行動上に課題を抱える子どもの施設・児童自立支援施設 第 9 回：社会的養護の役割① 虐待を受けた子どもの理解と施設の役割 第 10 回：社会的養護の役割② 問題行動のある子どもの理解と施設の役割 第 11 回：社会的養護の役割③ 発達障がいのある子どもの理解と施設の役割 第 12 回：社会的養護と連携 施設と児童相談所等との連携 第 13 回：社会的養護と権利 子どもの権利擁護と職員の倫理 第 14 回：社会的養護と運営 施設の運営管理と課題 第 15 回：まとめ 社会的養護Ⅱの総括 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】 *授業に必要な資料を適宜配布します。(テキストは使用しません)			
【参考書・参考資料など】			
【学生に対する評価】 *成績は「定期試験60%」「課題レポートなど40%」の方法で評価します。			

【授業科目名】 教育制度		【授業の種類】 講義	【担当教員名】 奥村 旅人
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 2年後期	【必修・選択】 必修
<p>【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】</p> <p>現代の学校教育に関する制度的事項について、基礎的な知識を身に付けるとともに、それに関する課題を理解する。なお、学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識も身に付ける。</p> <p>(1) 教育に関する制度的事項</p> <p>一般目標：現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付けるとともに、そこに内在する課題を理解する。</p> <p>到達目標：1) 公教育の原理及び理念を理解している。 2) 公教育制度を構成している教育関係法規を理解している。 3) 教育制度を支える教育行政の理念と仕組みを理解している。 4) 教育制度をめぐる諸課題について例示することができる。</p> <p>(2) 学校と地域との連携</p> <p>一般目標：学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解する。</p> <p>到達目標：1) 地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法を理解している。 2) 地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯を理解している。 3) 学校安全への対応</p> <p>一般目標：学校の管理下で起こる事件、事故及び災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取組を理解する。</p> <p>到達目標：1) 学校の管理下で発生する事件、事故及び災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性について理解している。 2) 生活安全・交通安全・災害安全の各領域や我が国の学校をとりまく新たな安全上の課題について、安全管理及び安全教育の両面から具体的な取組を理解している。</p>			
<p>【授業の概要】</p> <p>日本の教育制度の成立と機能を理解し、現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付けるとともに、そこに内在する課題を理解する。</p>			
<p>【授業計画】</p> <p>第 1回：教育制度を学ぶ意味</p> <p>第 2回：教育の基本原則と制度 子どもの学習権、学校教育の成立、学校体系の諸類型と日本の特徴</p> <p>第 3回：教育制度と法律 日本国憲法、教育基本法、学校教育法</p>			

第 4回：教育行政の仕組みと役割 国と地方自治体の教育行政機関（文部科学省、教育委員会）  
第 5回：学校教育の制度（1）公教育と義務教育  
第 6回：学校教育の制度（2）後期中等教育、中等教育後の教育制度  
第 7回：生涯学習体系と教育制度 教育・保育実践の相互連携、家庭・地域との連携及び校種間の連携  
第 8回：教育内容の制度化 学習指導要領と教育課程編成  
第 9回：教員に関する制度 職務に関わる諸制度、教員の養成・研修・職能成長に関わる諸制度  
第10回：就学前教育制度（1）乳幼児期における教育と保育、関連の諸規定  
第11回：就学前教育制度（2）乳幼児期の教育・保育に関する諸規定  
第12回：就学前教育制度（3）子ども・子育て新制度  
第13回：教育行財政制度 財政措置と費用負担  
第14回：学校安全と危機管理 生活安全、交通安全、災害安全  
第15回：まとめ 教育制度の課題と展望（グローバルへの視点とローカルへの視点）  
定期試験

【テキスト名・著者名・出版社名】

適宜配布

【参考書・参考資料等】

『教育行政提要』高見茂・服部憲児編著（協同出版 2016年）

そのほか、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、保育所保育指針解説など適宜配布

【学生に対する評価】

定期試験（60%）、提出物（30%）、グループワークでの発表内容（10%）

【授業科目名】 発達心理学Ⅱ		【授業の種類】 演習	【担当教員名】 濱名 浩
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 2年前期	【必修・選択】 選択必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者の援助について発達の項目ごとに押さえていく。</li> <li>・乳幼児の姿からその育ちを保護者にも説明できるよう理解を深める。</li> <li>・様々な場面での問題と保護者への対応を身につける。</li> </ul>			
【授業の概要】 保育現場で乳幼児をどう育てるか、その方向性を知らないままに保育現場に入るのは無謀である。子ども達の前に専門職として立つためには、乳幼児の6年間を見通し、その姿の意味を理解し楽しみながらかわることが大切である。本講義では誕生から小学校入学までの6年間の発達について、保育のなかでの理解を深めていく。また、実習では経験せず、現場に入って最も気を遣う仕事の一つである保護者対応や相談対応についてのスキルを身につけていく。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション（受講者に望むこと・受講上の注意点等） 第2回：赤ちゃんは有能である：DVDを視聴し、乳児の有能さを理解し、保育の在り方を理解する 第3回：赤ちゃんの感情：DVDを視聴し、赤ちゃんの情動と保育する大人の情動の関係を理解 第4回：母子相互作用の大切さ：愛着関係の程度が及ぼす子どもの育ち、保育者のかかわり 第5回：どうして虐待が起きるか：虐待の仕組みと虐待児に対する保育者の対応を理解する 第6回：乳児の運動発達は：世界づくりに大きく作用する 保育のなかでどう取り扱うか 第7回：子どもの個性をどう見るか：個性をどう育てれば良いのか 親や保育者の期待はどう影響するか 第8回：ことばの発達：専門家として、ことばを育てるには 第9回：ことば、内言と外言の発達：保育で最も大切に育てなければならない内言について理解する 第10回：子どもの話を聞くととは：子どもの記憶、嘘 発達的に押さえていく 第11回：思いやる心を育てる：自己の意識と友だちの存在 思いやりを育てるには 第12回：遊びの発達と援助：遊びは発達的に変容する、遊びの発達と環境構成・指導法について 第13回：友だちとのトラブル：いざこざ・トラブルにどうかわるか 保護者にどう向き合うか 第14回：保護者とどう対応するか：トラブル、クレーム、個人懇談、相談、様々な場合に応じる カウンセリングマインドとスキル 第15回：まとめ：保育者、これが大切 忘れてはならない鉄則について 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】 よくわかる乳幼児心理学・内田 伸子・ミネルヴァ書房			
【参考書・参考資料等】			
【学生に対する評価】 定期試験 85%、授業時のワークシート等 15%とする。			

【授業科目名】 発達心理学Ⅱ		【授業の種類】 演習	【担当教員名】 多田 智恵子
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 2年前期	【必修・選択】 選択必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 全生涯にわたる発達について、それぞれの時期の特徴を深く理解する。さらに、各時期特有の、またはその時期に発症、発見されやすい心理的な問題や障がいの問題を理解し、それに対する支援方法の習得を目指す。			
【授業の概要】 この授業は、人の発達を全生涯にわたる変化・成長としてとらえて進める。乳児期から老年期に至る身体的・心理的・社会的発達を深く学ぶ。また、各時期特有の心理的問題や障がいについて理解し、その後も続く心理的問題や障がいに対しての理解と支援の方法を考える。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション・乳児期の発達と支援 受講者に望むこと・受講上の注意点等 育てにくい赤ちゃんへの支援 -乳幼児ゆさぶられ症候群を防ぐ- 第2回：幼児期の発達と支援① 児童虐待と愛着障がい 第3回：幼児期の発達と支援② 自閉症スペクトラムについて考える 第4回：学童期の発達と支援① ADHD児への理解と支援 第5回：学童期の発達と支援② 吃音・チック・場面緘黙の理解と支援 第6回：青年期の悩みを支援する① 境界性パーソナリティ障がいと「見捨てられうつ」 第7回：青年期の悩みを支援する② 自己愛性パーソナリティ障がいとデートDV 第8回：青年期の悩みを支援する③ 自己愛性パーソナリティ障がいとハラスメントの問題 第9回：成人期の悩みを支援する 中年期の危機 - うつ病を予防する- 第10回：老年期の悩みを支援する 介護の問題 -認知症を防ぐ- 第11回：人生の危機を支援する 子どもや保護者のPTSDへの支援 第12回：障がいや心の病を支援する① 興味のある障がいや疾患について調べる（グループワーク） 第13回：障がいや心の病を支援する② 興味のある障がいや疾患についての支援方法を調べる（グループワーク） 第14回：障がいや心の病を支援する③ 発表に向けて準備する（グループワーク） 第15回：グループ発表・まとめ グループ発表・全体のまとめ、質疑応答 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】 使用しない。			
【参考書・参考資料等】 よくわかる発達心理学 無糖 隆・岡本裕子・大坪治彦 編 ミネルヴァ書房			
【学生に対する評価】 定期試験60%、授業時のワークシート等40%とする。			

【授業科目名】 教育心理学		【授業の種類】 講義	【担当教員名】 多田 智栄子
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 2年前期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】			
<p>全体目標</p> <p>幼児、児童及び生徒の学習の過程について、基礎的な知識を身に付け、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。</p> <p>(1) 幼児、児童及び生徒の学習の過程</p> <p>一般目標：幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的な知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。</p> <p>到達目標：1) 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解している。 2) 主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解している。 3) 幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解している。</p>			
【授業の概要】			
<p>幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。</p>			
【授業計画】			
<p>第 1回：教育心理学とは何か</p> <p>第 2回：学習とは何か (1-①) -2つの条件づけ-</p> <p>第 3回：学習とは何か (1-②) -観察学習、模倣学習、行動療法-</p> <p>第 4回：学習とは何か (2) -記憶すること・考えること-</p> <p>第 5回：動機づけ・意欲とは何か</p> <p>第 6回：自己とは何か</p> <p>第 7回：社会性とは何か</p> <p>第 8回：教育評価とは何か</p> <p>第 9回：学校不適応への理解と支援</p> <p>第10回：障がいのある子どもへの理解と支援①-学習心理学や応用行動分析 (ABA) の視点を取り入れた支援</p> <p>第11回：障がいのある子どもへの理解と支援②-事例から学ぶ：認知心理学やTEACCHプログラムの視点を取り入れた支援-</p> <p>第12回：学級集団を育てる①-保育者 (教師) のリーダーシップ-</p> <p>第13回：学級集団を育てる②-保育者 (教師) の勢力資源 (パワー) -</p> <p>第14回：学級集団を育てる③-保育者 (教師) と子どもや学級集団との関係-</p> <p>第15回：まとめ-全体のまとめ、質疑応答-</p> <p>定期試験</p>			

【テキスト名・著者名・出版社名】 使用しない。
【参考書・参考資料等】 なし。
【学生に対する評価】 定期試験60%、授業時のワークシート等40%とする。

【授業科目名】 臨床心理学		【授業の種類】 演習	【担当教員名】 伊都 紀美子
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 2年前期	【必修・選択】 選択必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 臨床心理学の基礎知識の習得と自己理解を深める。 幼児や保護者の心の問題と支援方法について考えることができる。			
【授業の概要】 臨床心理学の理論や考え方、心の問題の理解と援助方法について演習を交えながら学ぶ。 さらに、発達障害を中心とした心の問題を取り上げ、支援方法について考える。			
【授業計画】 第1回：臨床心理学とは何か（オリエンテーション、臨床心理学を学ぶ意義） 第2回：心の個性について考える（パーソナリティ、自己理解） 第3回：心の個性について考える（アセスメント、心理検査） 第4回：基本理論（精神分析、クライアント中心療法） 第5回：基本理論（認知行動療法、芸術療法） 第6回：基本理論（カウンセリングの基礎） 第7回：心理的問題（ストレスへの反応と対処） 第8回：心理的問題（精神症状） 第9回：幼児期の心理的問題（幼児と保護者の心の問題） 第10回：幼児期の心理的問題（幼児期の心理療法、チーム支援） 第11回：発達障害の理解と支援（発表資料作成） 第12回：発達障害の理解と支援（発表会） 第13回：発達障害の理解と支援（発表会） 第14回：発達障害の理解と支援（発表会） 第15回：まとめ 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】 使用しない 資料プリントを配布する			
【参考書・参考資料等】			
【学生に対する評価】 定期試験60% 演習・発表20% レポート20%			

【授業科目名】 子どもの保健Ⅱ		【授業の種類】 演習	【担当教員名】 山階 真生
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 2年前期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 演習として学んだ「身体計測」「養護」「救急処置」については、保育現場で必要時その技術を活用できることを目標とする。			
【授業の概要】 すでに修得した子どもの保健Ⅰの知識を基礎として、保育の場において実践できる応用能力を養う。「身体計測」「養護」「救急処置」については演習を通してその技術を習得する。講義及び実技演習を行う。			
【授業計画】 第1回：子どもの発達と評価 オリエンテーション（受講者に望むこと・受講上の注意点等） 第2回：子どもの発達と評価 身体計測と評価・精神発達の評価 第3回：子どもの保健と環境 乳幼児の健康管理と環境 第4回：子どもの保健と環境 感染防止のための標準予防策 第5回：子どもの保健と環境 乳幼児の養護 第6回：子どもの保健と環境 「演習」身体計測と乳幼児の養護 第7回：子どもの保健と環境 事故防止・健康管理・安全管理の組織的取り組み 第8回：事故防止と健康管理・安全管理 子どもの救急法 第9回：事故防止と健康管理・安全管理 子どもの救急法 第10回：事故防止と健康管理・安全管理 保育における養護 第11回：事故防止と健康管理・安全管理 「演習」救急処置 第12回：事故防止と健康管理・安全管理 「演習」包帯法：三角巾の使い方 第13回：健康づくりと地域保健活動 地域組織との連携 第14回：保健活動の計画と評価 保健活動とは 保健計画 第15回：まとめ 復習 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】 保育者のための子どもの保健Ⅱ・鈴木美枝子・創成社			
【参考書・参考資料等】 子どもの保健 演習（大西文子著、中山書店）、はじめて出会う小児科の本（山田真、福音館書店）			
【学生に対する評価】 定期試験（ペーパーテスト）60%、レポート10%、グループ学習、提出物など30%			

【授業科目名】 家庭支援論		【授業の種類】 講義	【担当教員名】 徳野 美恵子
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 2年前期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 1. 現代の育児を取り巻く社会状況からなぜ子育て支援が必要か説明できる。 2. どのような子育て支援の方法や形態があるか、どのような子育て上の問題がありどう対応していけばよいか説明ができる 3. 事例を通して、子育て家庭支援者である保育者の職務の重要性を認識する。			
【授業の概要】 現代の家族を取り巻く社会環境とそれに生じる諸問題から、保育所の持つ「子育て支援」が重要な社会的役割を持ち、乳幼児、親を含めた家族が、保育士の関わる保育の対象であることを理解する。さらに子育て支援は保育所に通所する子どもの保護者だけではなく、在宅の親やその子どもについても必要とされていることを理解する。また、それぞれの家族のニーズに応じた家族福祉を図るための様々な援助活動や関係機関との連携について学ぶ。本授業ではこれらの基礎知識と援助の方法を身に付ける。			
【授業計画】 第 1回：オリエンテーション・家庭支援が求められる背景と意義 第 2回：子どもが育つとは、育つ場としての「家族」「家庭」 第 3回：家族・家庭の動向と現状、家庭支援の課題 第 4回：子育て家庭を取り巻く社会環境の変化 第 5回：子育て意識の変化、子育て「困難」のさまざま 第 6回：子育て家庭を支援する具体的な制度① 第 7回：子育て家庭を支援する具体的な制度② 第 8回：子育て家庭支援の政策動向 第 9回：子育て家庭支援の目的・対象と援助 第10回：相談・援助者の役割と基本的態度 第11回：援助の実際① 第12回：援助の実際② 第13回：特別なニーズへの対応の考え方、育てにくさや障害のある子ども 第14回：乳幼児の虐待、ひとり親家庭、ステップファミリー 第15回：授業の振り返りとまとめ・今後の展望 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】 実践家庭支援論 松本園子 永田陽子 福川須美 堀口美智子 ななみ書房			
【参考書・参考資料等】 幼稚園教育要領・保育所保育指針 臨時プリントの配布			
【学生に対する評価】 定期試験60% レポート30% グループ学習発表内容10%で総合評価とする。			

【授業科目名】 教育課程総論		【授業の種類】 講義	【担当教員名】 濱名 浩
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 2年前期	【必修・選択】 必修
<p>【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】</p> <p>全体目標</p> <p>幼稚園教育要領を基準として幼稚園において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、幼稚園の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。</p> <p>(1) 教育課程の意義</p> <p>一般目標：幼稚園において教育課程が有する役割・機能・意義を理解する。</p> <p>到達目標：1) 幼稚園教育要領の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的を理解している。 2) 幼稚園教育要領の改訂の変遷及び主な改定内容並びにその社会的背景を理解している。 3) 教育課程が社会において果たしている役割や機能を例示できる。</p> <p>(2) 教育課程の編成の方法</p> <p>一般目標：教育課程編成の基本原理及び幼稚園の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。</p> <p>到達目標：1) 教育課程編成の基本原理を理解している。 2) 教科・領域を横断して教育内容を選択・配列された教育課程やその考え方を例示することができる。 3) 学期・学年をまたいだ長期的な視野や幼児や学校、地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性を理解している。</p> <p>(3) カリキュラム・マネジメント</p> <p>一般目標：教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、幼稚園教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。</p> <p>到達目標：1) 幼稚園教育要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解している。 2) カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解している。</p>			
<p>【授業の概要】</p> <p>学校教育としての幼児教育は、幼児の発達に応じたふさわしい教育計画に基づき実施しなければならない。それには、毎年のカリキュラムを見直し、一人一人の幼児の姿から育ちの方向性、つまりねらいを持った保育を計画し、実践・振りかえることが大切である。DVDの視聴やワークショップをするなかで現場の姿をイメージしながら教育課程・保育課程について学んでいく。幼稚園・保育所・認定こども園における教育課程や保育課程とはどのようなもので、保育者は、それに基づいてどう実践しているのか理解を深め、保育の実践力を身に付けていけるようにしたい。</p>			
<p>【授業計画】</p> <p>第 1回：幼児教育・保育とは 子守りと保育の違い</p> <p>第 2回：教育課程・保育計画とは 教育課程・保育課程を理解する</p> <p>第 3回：3歳児の教育課程 (1) 3歳児の4月5月6月の子どもの姿と指導計画について</p>			

第 4回：3歳児の教育課程（2）3歳児の2学期、3学期の子どもの姿と指導計画について  
第 5回：3歳児の教育課程（3）3歳児の発達と指導の評価、カリキュラム・マネジメントについて  
第 6回：4歳児の教育課程（1）4歳児前半の子どもの姿と指導計画について  
第 7回：4歳児の教育課程（2）4歳児後半の子どもの姿と指導計画について  
第 8回：4歳児の教育課程（3）4歳児の発達と指導の評価、カリキュラム・マネジメントについて  
第 9回：5歳児の教育課程（1）5歳児前半の子どもの姿と指導計画について  
第10回：5歳児の教育課程（2）5歳児後半の子どもの姿と指導計画について  
第11回：5歳児の教育課程（3）協同的活動とアプローチカリキュラムについて  
第12回：5歳児の教育課程（4）「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」とカリキュラム・  
マネジメント  
第13回：未満児の保育課程 保育所における保育課程の理解、未満児の発達と保育計画について  
第14回：認定こども園の指導計画 預かり保育や長期休業中の保育について  
第15回：まとめ 振り返りと課題  
定期試験

【テキスト名・著者名・出版社名】

新3法令対応 幼児教育・保育カリキュラム論（河邊 貴子著、東京書籍）

【参考書・参考資料等】

幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、保育所保育指針解説

【学生に対する評価】

定期試験（55%）、授業中のレポート（45%）

【授業科目名】 保育課程論		【授業の種類】 講義	【担当教員名】 吉田 しのぶ
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 2年後期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】 ・保育現場における様々な保育の計画を理解し、保育所の役割、保育内容・方法について理解を深める。 ・子どもの発達過程を把握し、環境を通じた保育の計画を立てられるようになる。			
【授業の概要】 保育現場における保育課程や様々な指導計画の作成と、評価の意義について具体的な事例を挙げながら学習する。 子どもとの関わり方や環境構成、専門職としての保育の質の向上を図るための記録の仕方や活用の在り方を修得する。			
【授業計画】 第1回：「保育課程を学ぶ意義」「保育（教育）課程・指導計画の必要を理解する」 第2回：「課程って何」「カリキュラムの考え方を理解する」 第3回：「歴史的な変化」「幼稚園教育課程・保育所保育課程の歴史と変遷」 第4回：「様々な課程1」「幼稚園教育要領に示されている幼稚園教育の目的・目標の理解する」 第5回：「様々な課程2」「保育所保育指針に示されている保育所保育の目的・目標を理解する」 第6回：「様々な課程3」「幼保連携型認定こども園の教育・保育要領に示されている目的・目標を理解する」 第7回：「共通している内容」「教育要領・指針・教育保育要領に共通して盛り込まれている内容を理解する」 第8回：「生活の理解」「環境・遊びを通しての教育の意図を理解する」 第9回：「課程を考えるために必要なこと」「全体的な計画（保育課程）の作成について理解する」 第10回：「環境の重要性」「環境・遊びを通しての教育の意図を理解する」 第11回：「計画の実践」「保育者の働き、言葉かけを具体化し、子どもたちの行動を予測する」 第12回：「様々な計画の実際」「例を参考にして具体的に指導計画を編成する」 第13回：「保育の振り返り」「幼児理解・環境構成・援助などから振り返ることの意味を理解する」  第14回：「保育の質の向上のために」「保育課程（全体的な計画）・教育課程の見直しとPDCAについて理解する」 第15回：「次への課題を公表する」「評価と情報開示について理解する」 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】 就学前教育の計画を学ぶ ・ 松村和子・近藤幹生・椛島香代 ・ ななみ書房			
【参考書・参考資料等】 保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領			
【学生に対する評価】 ・定期試験 60% ・提出物 40%			

【授業科目名】 保育内容総論		【授業の種類】 講義	【担当教員名】 藤井 和子
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 2年前期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】			
<p>1. 幼稚園、保育所における保育の実際を知り、各領域と保育内容を総合的にとらえる視点を獲得する。</p> <p>2. 保育内容の歴史的変遷を学び、保育内容を具体化する指導計画の作成、評価の基本を理解する。</p> <p>3. 子どもの発達段階、興味や関心に沿って実践していく保育内容を理解する。</p>			
【授業の概要】			
<p>幼稚園、保育所、認定こども園における保育内容を理解し、各領域の関連性と保育の全体構造をとらえる。また、幼児理解、子どもの活動、環境構成、指導計画などから保育の流れを概観し、保育者の役割や援助のあり方を学ぶ。同時に多様な保育ニーズへの対応や小学校との接続など、保育内容をめぐる課題を考察する。</p>			
【授業計画】			
<p>第 1 回：保育内容総論とは オリエンテーション（受講者に望むこと・受講上の注意点等）</p> <p>第 2 回：社会環境と保育 子どもを取り巻く社会環境の変化と保育内容</p> <p>第 3 回：保育・教育の基本 保育所・幼稚園・認定こども園の役割</p> <p>第 4 回：保育内容・保育の方法 保育所・幼稚園・認定こども園の保育内容</p> <p>第 5 回：保育内容の展開 保育内容を展開するプロセス</p> <p>第 6 回：乳児の理解と保育 乳児の保育内容</p> <p>第 7 回：1・2歳児の理解と保育 1・2歳児の保育内容</p> <p>第 8 回：幼児の理解と保育 3・4・5歳児の保育内容</p> <p>第 9 回：小学校との連携 就学前教育と初等教育を接続する保育内容</p> <p>第 10 回：異年齢保育 異年齢保児の保育内容と展開</p> <p>第 11 回：子育て支援 子育て支援を創造する保育内容</p> <p>第 12 回：地域の教育力 地域に開かれた保育所・幼稚園・認定こども園を創造する保育内容</p> <p>第 13 回：諸外国の保育 諸外国の保育所・幼稚園の保育内容</p> <p>第 14 回：保育内容の変遷 我が国における保育内容の変遷</p> <p>第 15 回：社会の変化と保育ニーズ これからの保育内容の課題</p>			
定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】			
使用しない 適宣プリントを配布する			
【参考書・参考資料等】			
<p>文部科学省「幼稚園教育要領解説」厚生労働省「保育所所育指針解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館</p>			
【学生に対する評価】			
定期試験の成績（60%）提出物・課題レポート（40%）			

【授業科目名】 保育内容総論（演習）		【授業の種類】 演習	【担当教員名】 藤井 和子
【授業の回数】 8回	【時間数】 15時間	【開講学年・時期】 2年後期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育保育要領に記載されている保育の内容を理解し、現場での応用的実践力を修得する。また、グループ討議で自他の考えを学び合い、レポートで自分の理解を述べるようになる。			
【授業の概要】 保育所及び幼稚園、認定こども園の保育内容の総合的な内容の理解を深める。年齢別保育内容、領域別保育内容、地域や保護者との連携、などを理解する。グループ討議、小レポートを書くという方法で授業を進める。			
【授業計画】			
第 1回：オリエンテーション	受講者に望むこと・受講上の注意点		
第 2回：養護と教育の一体性	保育所・幼稚園・認定こども園の役割と保育内容		
第 3回：生活から捉える保育内容	保育所・幼稚園・認定こども園における子どもの生活		
第 4回：環境から捉える保育内容	子どもの活動と「環境」を通して行う保育について		
第 5回：保育内容と保育の展開	0～2歳児の子どもの発達、生活と遊びを具体例から学ぶ		
第 6回：保育内容と保育の展開	3歳児の子どもの発達、生活と遊びを具体例から学ぶ		
第 7回：保育内容と保育の展開	4～5歳児の子どもの発達、生活と遊びを具体例から学ぶ		
第 8回：多様な保育の展開と課題	配慮を要する子どもの保育内容 保護者との関わり		
まとめ			
定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】 使用しない 適宜プリントを配布する			
【参考書・参考資料等】 文部科学省「幼稚園教育要領解説書」厚生労働省「保育所保育指針解説書」内閣府・文部科学省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書」フレーベル館			
【学生に対する評価】 定期試験（60％）課題レポート・提出物（40％）			

【授業科目名】 保育内容・健康		【授業の種類】 演習	【担当教員名】 村田 健治
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 2年前期	【必修・選択】 必修
<p>【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】</p> <p>全体目標</p> <p>領域「健康」は、「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う」ことを目指すものである。幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された領域「健康」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>(1) 各領域のねらいと内容</p> <p>一般目標：幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらい及び内容を理解する。</p> <p>到達目標：1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「健康」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。</p> <p>2) 領域「健康」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。</p> <p>3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。</p> <p>4) 領域「健康」に幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。</p> <p>(2) 保育内容の指導方法と保育の構想</p> <p>一般目標：幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>到達目標：1) 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。</p> <p>2) 領域「健康」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。</p> <p>3) 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。</p> <p>4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。</p> <p>5) 領域「健康」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</p>			
<p>【授業の概要】</p> <p>領域「健康」のねらいや内容について理解を深める。子どもの成長していく力を保育者としてどのように支援していくのか、また、心と身体の発達の過程をふまえ、基本的な生活習慣の形成と安全保育における保育者の心構えを学ぶ。グループディスカッションを取り入れて、健康の理解を深めていく。</p>			
【授業計画】			

第 1 回：健康の定義 健康の定義と乳幼児期の健康の意義  
 第 2 回：健康とは何か（1）幼稚園教育要領の基本と領域「健康」から教育に関わるねらいと内容  
 第 3 回：健康とは何か（2）他の領域との関連と小学校との連携  
 第 4 回：身体の発育と心の発達 身体の発育の特徴と、豊かな心の発達の基礎  
 第 5 回：子どもの生活と健康 保育現場と家庭との連携  
 第 6 回：基本的生活習慣の獲得 基本的生活習慣の発達基準  
 第 7 回：基本的生活習慣の指導と援助 園生活での指導の実際と環境づくり  
 第 8 回：乳幼児期の遊びの発達と健康（1）乳幼児の発育を促す遊び、具体的な保育場面を想定しての  
 教材研究  
 第 9 回：乳幼児期の遊びの発達と健康（2）乳幼児の発育を促す遊びから援助の仕方、指導計画案作成  
 第 10 回：乳幼児期の遊びの発達と健康（3）模擬保育  
 第 11 回：乳幼児期の遊びの発達と健康（4）模擬保育の振り返り  
 第 12 回：保健への配慮と指導・援助 日々の健康管理（視診・保護者との連携等）及び子どもの病気の  
 対応とけがの応急処置  
 第 13 回：安全保育 子どもを守る安全の視点を踏まえた情報機器及び教材の活用法  
 第 14 回：健康と安全への配慮と指導 安全管理と安全教育  
 第 15 回：まとめ 保育者の役割 授業を振り返り、保育者の役割を認識する。  
 定期試験

【テキスト名・著者名・出版社名】

実践保育内容シリーズ1 健康(谷田貝公昭、高橋弥生編、一藝社)

【参考書・参考資料等】

幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

【学生に対する評価】

定期試験（50%）、授業課題レポート（30%）、模擬保育（20%）

【授業科目名】 保育内容・環境		【授業の種類】 演習	【担当教員名】 藤田 千波
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 2年後期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・5領域の中の「環境」の位置付け、その目標と内容について理解する。</li> <li>・環境に関わりながら遊ぶ子どもたちの、育ちを支える保育者の役割を知る。</li> <li>・保育実践を進めていくことの重要性や具体的な指導方法、環境構成について理解を深める。</li> </ul>			
【授業の概要】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・領域「環境」の意義を捉え、その指導方法の習得を目的とする。</li> <li>・乳幼児自身の活動を通して好奇心・探求心の育ちと、それを育てるための保育者の援助や役割を知り、指導方法や保育環境の構成について学ぶ。</li> </ul>			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション：受講者に望むこと・受講上の注意点等/保育内容「環境」の意義 第2回：「環境」のねらいと内容：「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」におけるねらいと内容を知る 第3回：保育内容「環境」と幼児理解：保育内容「環境」の視点を用いて幼児理解を図る 第4回：好奇心・探求心を育てる：好奇心・探求心を育てるために必要な指導方法について 第5回：思考力の芽生えをはぐくむ：子どもたちがどのような過程で思考力を育てていくのか 第6回：環境に関わる力①「人」：人的環境としての友だちや保育者の役割、専門性や援助方法について 第7回：環境に関わる力②「物」：物的環境としての園具・遊具・素材、それぞれが持つ意味や役割について 第8回：環境に関わる力③「自然」：自然環境から子どもの育つ力を育てるための指導方法について 第9回：環境に関わる力④「日常生活」：日常生活の中で、子どもはどのようなことに興味関心を抱き、学んでいるのか 第10回：地域・行事とのかかわり：地域との関わりが求められている現状や独自の行事を知る 第11回：「環境」からみた道徳性の芽生えを培う：「環境」の視点から見た子どもたちの道徳性の芽生えを培う保育について 第12回：乳幼児の安全環境：子どもにとっての安全な環境づくり 第13回：保育内容「環境」からみた実践的課題：直接的な経験が減っている現状と必要となる実践を検討する 第14回：人的、物的、空間的環境について：DVDを活用して園内の環境構成について考える 第15回：子どもの気付きを広げる指導/まとめ：子どもの気付きを広げる指導法として、情報機器や教材の活用方法を学ぶ 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】 新保育ライブラリー保育内容 環境 ・ 小田豊 湯川秀樹 ・ 北大路書房			
【参考書・参考資料等】 保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説			
【学生に対する評価】 定期試験：60% 授業時のワークシート：40%			

【授業科目名】 保育内容・表現Ⅱ		【授業の種類】 演習	【担当教員名】 榎本優人、日笠みどり、有居恵 稲富明子、内田恵、浦あゆみ、 數井紗知、川村尚子、山脇孝子
【授業の回数】 30回	【時間数】 60時間	【開講学年・時期】 2年通年	【必修・選択】 必修
<p>【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】</p> <p>幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>(1) 領域「表現」のねらいと内容</p> <p>一般目標：幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。</p> <p>到達目標：1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。</p> <p>2) 領域「表現」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。</p> <p>3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。</p> <p>4) 領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。</p> <p>(2) 保育内容の指導方法と保育の構想</p> <p>一般目標：幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>到達目標：1) 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。</p> <p>2) 領域「表現」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。</p> <p>3) 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。</p> <p>4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。</p> <p>5) 領域「表現」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</p>			
<p>【授業の概要】</p> <p>各自の進度に合わせて個人レッスンとグループ演習を行う。ピアノを使った表現の技能向上を目指すと共に、現場で役立つ実践曲のレパートリーを広げる。さらに、音楽に合わせた身体表現、情景描写や即興等の演習を行い、より幅広い音楽表現を目指す。</p>			
<p>【授業計画】</p> <p>第 1回：オリエンテーション 課題の確認</p> <p>第 2回：「アラベスク」 強弱・アーティキュレーション・転調等による曲想の変化を捉える。</p> <p>第 3回：リズム曲「マーチ」「しゃぼん玉」他 強弱・アーティキュレーション・転調等による曲想変化を捉える。</p> <p>第 4回：「無邪気」 曲想を活かした演奏表現を学ぶ。</p>			

- 第 5回：「こいのぼり」「おかあさん」 曲想を活かした演奏表現を学ぶ。
- 第 6回：リズム曲「スキップ」 リズム変奏法のポイントを学ぶ。
- 第 7回：「きらきら星」 グループ演習、リズム変奏を用いた身体表現を学ぶ。グループの身体表現をスマートフォンやカメラ等で撮影し、表現の仕方を考える。
- 第 8回：「バラード」「タランテラ」 ピアノの低音部を活かした表現を学ぶ。
- 第 9回：「もりのくまさん」「アイアイ」 ストーリーやキャラクター性のある作品の表現を学ぶ。
- 第10回：リズム曲「ラン」「マーチ」 リズムを活かした演奏法を学ぶ。
- 第11回：「貴婦人の乗馬」 変化に富んだ伴奏を学ぶ。
- 第12回：リズム曲「ワルツ」 変化に富んだ伴奏を学ぶ。
- 第13回：「とんぼのめがね」「むすんでひらいて」 初見演奏のポイントを学ぶ。
- 第14回：「手のひらを太陽に」「夕やけ小焼け」 初見視唱のポイントを学ぶ。
- 第15回：前期末まとめ 実技発表、到達度の確認
- 第16回：「もみじ」「どんぐりころころ」 季節の歌の歌唱
- 第17回：「もみじ」「どんぐりころころ」 発声法、鼻濁音
- 第18回：グループ演習 ピアノの即興演奏による情景描写と、それを用いた身体表現について情報機器、教材の活用法を理解し、身体表現力を深める。
- 第19回：「ふしぎなポケット」 曲の中での速度の変化
- 第20回：「あわてんぼうのサンタクロース」 子どもの歌を用いたリトミックの実践を学ぶ。
- 第21回：中間まとめ 実技発表
- 第22回：「まめまき」 季節の歌の演奏、借用和音
- 第23回：「うれしいひなまつり」 季節の歌の演奏、借用和音
- 第24回：わらべうたを用いた音楽表現 視聴覚教材DVDを活用して、わらべうたを理解する。
- 第25回：グループ演習
- 第26回：「思い出のアルバム」「雪」 季節の歌の歌唱
- 第27回：「思い出のアルバム」「雪」 変奏法の実践
- 第28回：子守歌 抒情的な音楽表現のポイントを学ぶ。 視聴覚教材DVDを活用し、さまざまな子守歌を知り、表現の仕方を学ぶ。
- 第29回：抒情的な音楽 抒情的な音楽表現のポイントを学ぶ。
- 第30回：1年間のおまとめ 実技発表、今後に向けてのアドバイス 情報機器を活用して、友だちの発表を検討し、保育の構想に活かす。

定期試験

【テキスト名・著者名・出版社名】

こどもの歌100（小林美実、チャイルド本社）、ブルグミュラー25の練習曲（J.ブルグミュラー、全音楽譜出版社）

【参考書・参考資料等】

保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説  
ソナチネ 第1巻、第2巻（全音楽譜出版社）

【学生に対する評価】

実技発表（60%）、平常実技到達度（40%）

【授業科目名】 乳児保育Ⅱ		【授業の種類】 演習	【担当教員名】 藤野 貴代子
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 2年後期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育所や乳児院で乳児保育を担当する保育士として、必要な乳児保育の理論や知識・技術の基本を具体的な事例を通して理解する。</li> <li>・ 乳児期の発達と保育について学びながら、保育者の役割について、具体的に理解する。</li> <li>・ 乳児保育における保護者や関係機関との連携、課題を討議しながら問題解決の方法を理解する。</li> </ul>			
【授業の概要】			
<p>3歳未満児の発達の過程や特性を踏まえ援助や関わりについて学び、現場での子どもの個性や発達、保護者のニーズを捉え、一人一人に合わせた関わり乳児保育の理論実践を学ぶ。</p> <p>少子化や核家族、ひとり親家庭が進行する中、子育てに不安や悩みを抱える保護者が増加し、養育力の低下や児童虐待の増加などが指摘され、ますます乳児保育が不可欠となっている。子どもの発達を援助すること、働く親の就労支援、地域へ子育て力を発信する場としての支援について学ぶ。</p>			
【授業計画】			
<p>第1回：初エンション 受講者に望むこと・受講上の注意点等(思春期を見据えた乳児保育の必要性和保育者の役割)</p> <p>第2回：3歳未満児の発育と発達 0歳児、1歳児、2歳児の発達過程</p> <p>第3回：3歳未満児の発育と発達 遊びを育てるおもちゃ</p> <p>第4回：ワークショップ おもちゃから学ぶ おもちゃから育つもの 個々の発達を促す乳児室の環境</p> <p>第5回：ワークショップ おもちゃ 玩具製作 指先の機能を高める玩具づくり</p> <p>第6回：ワークショップ おもちゃ 製作発表 手作りおもちゃから育つもの</p> <p>第7回：乳児期の環境と人間関係 人と関わる土台を築く乳児期の人間関係</p> <p>第8回：乳児期の環境と人間関係 豊かな人間関係を育む環境と保育者の役割</p> <p>第9回：乳児期の発達 自我の自立と、言葉の発達と社会性の芽生え</p> <p>第10回：乳児期の全体的と指導計画 全体的な計画に基づく指導計画</p> <p>第11回：記録のとり方 カリキュラム(指導案の書き方) 記録の取り方、連絡帳の書き方</p> <p>第12回：ワークショップ「やってみよう」 触れ合い遊び、わらべうた遊び、手遊びグループごとに指導案を作成する</p> <p>第13回：ワークショップ「やってみよう」 グループに分かれ模擬保育をする</p> <p>第14回：乳児室の環境づくりの実際 安全で心地よい自分の居場所は(空間・拠所)・絵本の大好きな子どもに</p> <p>第15回：まとめ 乳児保育の役割 グループディスカッション 保育所保育の必要性和役割</p> <p>定期試験</p>			
【参考書・参考資料等】			
乳児保育第3版(1年次 使用した本) 著者名大橋 貴美子・荒木美知子・大方 美香 出版社名(株) みらい			
【参考書・参考資料等】			
保育所保育指針解説 幼稚園教育要領解説 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説			
【学生に対する評価】			
・ 定期試験60% ・ 提出物40%			

【授業科目名】 社会的養護内容		【授業の種類】 演習	【担当教員名】 池永 浩造
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 2年前期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及テーマ】【目標】 子ども虐待など多くの課題を抱える児童福祉施設の現状について、特に児童養護施設での複雑な入所問題や施設生活の課題、また入所児の家庭状況などを知ること、養護問題の解決に繋がる支援や日常生活の援助のあり方を理解する。そのうえで、施設現場において子どもの最善の利益を優先した支援が提供できる施設保育士としての力をつけていく。			
【授業の概要】 児童福祉施設の事業目的や役割、機能、そして今日的な課題等を概説すると共に、施設に入所してくる子どもの抱える さまざまな養護問題の解決的支援のあり方も視野に入れながら、施設保育士としての養育や自立の専門的役割について理解を深める。また、子どもとの直接的な関係性からその重要性を確認する。 (「グループ討議」「ビデオ視聴」などの学習方法を用いて授業を行っていく)			
【授業計画】 第 1 回：児童福祉施設の内容① オリエンテーション / 施設養護領域の役割 第 2 回：児童福祉施設の内容② 児童養護施設の事業目的や役割、機能の理解 第 3 回：児童福祉施設での権利 子どもの人権や権利における施設の現状と課題 第 4 回：児童福祉施設の子ども① 複雑化する施設入所理由と子どもの現状 第 5 回：児童福祉施設の子ども② 施設入所児が抱える問題や課題とその背景 第 6 回：児童福祉施設の生活① 施設生活を通じた基本的な生活援助 第 7 回：児童福祉施設の生活② 施設生活を通じた子どもの成長及び発達支援 第 8 回：児童福祉施設の生活③ 施設生活から子どもの自立支援 第 9 回：児童福祉施設の生活④ 施設の家族再統合への支援とアフターケア 第 10 回：児童福祉施設の援助 施設での集団性と個別的支援 第 11 回：児童福祉施設と里親 施設における家庭的養護とファミリーホーム 第 12 回：児童福祉施設と虐待① 被虐待児の現状と施設の対応 第 13 回：児童福祉施設と虐待② 被虐待児の理解と施設支援 第 14 回：児童福祉施設と職員 施設職員の専門性と倫理 第 15 回：まとめ 社会的養護内容の総括 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】 *授業に必要な資料を適宜配布します。(テキストは使用しません)			
【参考書・参考資料など】			
【学生に対する評価】 *成績は「定期試験60%」「課題レポートなど40%」の方法で評価します。			

【授業科目名】 保育相談支援		【授業の種類】 演習	【担当教員名】 村田 健治
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 2年後期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 保育相談支援の意義と原則について理解するとともに、保護者との信頼関係を築くための基本姿勢を理解する。 また、保育相談事例や演習問題を通して、保護者の支援の進め方について実践力を身に付ける。			
【授業の概要】 保育相談支援の意義及び、保育士の役割と保育相談支援の基本を学ぶ。また、保育所や他の児童福祉施設 の様々な保育相談事例から、保育相談支援の実際と方法を学ぶ。実践力を身につけるためにグループ討議や ロールプレイ等の手法を活用した演習問題にも取り組む。			
【授業計画】 第 1回：オリエンテーション 受講者に望むこと・受講上の注意点等、保育士の役割と子育ての現状 第 2回：保育相談支援の意義 保護者に対する保育相談支援の意義 第 3回：保育相談支援の意義 保育の特性と保育士の専門性を生かした支援 第 4回：保育相談支援の基本 子どもの最善の利益と福祉の重視 第 5回：保育相談支援の基本 子どもの成長の喜びの共有、保護者の養育力の向上に資する支援 第 6回：保育相談支援の基本 信頼関係を基本とした受容的かわり、自己決定、秘密保持の尊重 第 7回：保育相談支援の基本 地域資源の活用と関係機関等との連携・協力 第 8回：保育相談支援の実際 保育にかかわる保護者への指導 第 9回：保育相談支援の実際 保育相談支援の内容 第10回：保育相談支援の実際 保護者支援の方法と技術 第11回：保育相談支援の実際 保育相談支援の計画、記録、評価、カンファレンス 第12回：児童福祉施設における保育相談支援 第13回：児童福祉施設における保育相談支援 第14回：児童福祉施設における保育相談支援 第15回：まとめ 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】 必要に応じてプリントを配布する			
【参考書・参考資料等】 保育所保育指針			
【学生に対する評価】 授業時のワークシート20% 小テスト20% 定期試験60%			

【授業科目名】 児童文化		【授業の種類】 演習	【担当教員名】 大西 淳子
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 2年前期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 子どもの心身の発達に必要な「あそび」の重要性について理解し、児童文化財の制作等を通じて、児童文化に対する知識と技術を習得する。実践的な活動を通じて言葉、造形、音楽、身体表現、心情表現等、子どもの表現活動について理解し、保育者としての必要な基本的な知識と表現力の向上を目指す。			
【授業の概要】 児童を取り巻く社会情勢や、時代背景、生活環境などについて理解を深めると共に児童文化、児童文化財について学ぶ。保育の場における児童文化財の一つである「劇あそび」を体験し、指導上の留意点や幼児の心情や思考について理解を深める。			
【授業計画】 第1回：児童文化とは？ オリエンテーション（受講者に望むこと・受講上の注意点等） 第2回：児童文化の歴史 児童文化の歴史の基礎的な内容について理解する。 第3回：児童文化財について 児童文化財の意義と役割について理解し、保育の中での表現方法を考える。 第4回：絵本と劇あそび①子どもの成長発達に応じた絵本選びをし、その内容について考察する。 第5回：絵本と劇あそび②劇発表のテーマに沿った絵本選びをし、そのストーリーを深く読み取り劇あそびへの構想を深める。 第6回：保育内容における劇あそび 劇あそびが子どもの発達、成長に大きく影響していることを知り、活動の面白さ、留意点を考える。 第7回：劇発表会（保育の花束）の企画 劇発表会（保育の花束）を企画し、自ら劇に参加することで子どもの気持ちを知り、作り上げる楽しさを体験する。 第8回：劇発表の実践（言葉） 言葉の持つ美しさ、豊かさ、面白さを感じ取る。 第9回：劇発表の実践（身体表現） 手、足、身体を使って表現する楽しさを体験し、活動の特徴や留意点を考える。 第10回：劇発表の実践（心情表現） 登場人物の気持ちになって表現し心の変化や成長を体験する。 第11回：劇発表の実践（音楽） 楽器演奏や合唱を体験し、その音色の美しさやリズムの面白さを感じ取る。 第12回：劇発表の実践（造形） 様々な素材や自然物などを使って、劇に必要な大道具小道具などを制作する。 第13回：劇発表と舞台（総合芸術） 保育の中での劇発表を実践し、保育者としての指導力、表現力を身につける。 第14回：劇発表の実践（指導案作成） 劇発表の経過を振り返り、発表当日の指導案を作成し、考察する。			

第15回：劇発表の実践（指導案作成）劇発表の経過を振り返り、発表当日の指導案を作成し、  
考察する。

定期試験

【テキスト名・著者名・出版社名】

適宜プリント配布

【参考書・参考資料等】

【学生に対する評価】

授業での発表内容と課題提出など 50% レポート提出 30% 作品提出 20%

【授業科目名】 教育相談論		【授業の種類】 講義	【担当教員名】 多田 智恵子
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 2年前期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】			
<p>全体目標</p> <p>幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。</p> <p>(1) 教育相談の意義と理論</p> <p>一般目標：学校における教育相談の意義と理論を理解する。</p> <p>到達目標：1) 学校における教育相談の意義と課題を理解している。 2) 教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解している。</p> <p>(2) 教育相談の方法</p> <p>一般目標：教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解する。</p> <p>到達目標：1) 幼児、児童及び生徒の不応や問題行動の意味並びに幼児、児童及び生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を理解している。 2) 学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性を理解している。 3) 受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解している。</p> <p>(3) 教育相談の展開</p> <p>一般目標：教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携の必要性を理解する。</p> <p>到達目標：1) 職種や校務分掌に応じて、幼児、児童及び生徒並びに保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を例示することができる。 2) いじめ、不登校・不登園、虐待、非行等の課題に対する、幼児、児童及び生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を理解している。 3) 教育相談の計画の作成や必要な校内体制の整備など、組織的な取組みの必要性を理解している。 4) 地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解している。</p>			
【授業の概要】			
<p>教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。</p>			
【授業計画】			
<p>第 1回：教育相談とは オリエンテーション 受講者に望むこと・受講上の注意点等</p> <p>第 2回：相談の背景をとらえる 現代社会の子どもの育ちと家族を取り巻く社会背景</p> <p>第 3回：保育における教育相談① 傾聴、共感、受容の理解とカウンセリングマインド、受容技法</p> <p>第 4回：保育における教育相談② さまざまな教育相談の技法・繰り返し技法</p>			

第 5回：保育におけるアセスメント アセスメントの方法・観察、面接、記録の留意点・質問技法  
第 6回：子どもの発達をとらえる 子どもの発達と親子の関係（DVD鑑賞）・支持技法  
第 7回：乳児期の子どもの問題 乳児期の発達と気になる行動  
第 8回：幼児期の子どもの問題① 幼児期の発達と気になる行動  
第 9回：幼児期の子どもの問題② 幼児期の気になる行動への支援  
第10回：小学校における子どもの問題 小学生における気になる行動や問題行動  
第11回：中学校・高等学校における子どもの問題 中学生・高校生における気になる行動や問題行動  
第12回：気になる子どもへの関わり① 発達障がいと思われる子どもへの支援（グループワーク）  
第13回：気になる子どもへの関わり② 不登校（園）傾向のある子どもへの支援（グループワーク）  
第14回：気になる保護者への関わり① パートナリティーに問題を抱える保護者への支援（グループワーク）  
第15回：気になる保護者への関わり② 育児不安の理解と援助  
虐待をしている疑いがある保護者への支援（グループワーク）

定期試験

【テキスト名・著者名・出版社名】

教師・保育者のための教育相談 大野精一 萌文書林

【参考書・参考資料等】

なし。

【学生に対する評価】

定期試験 60%、授業時のワークシート提出 40%として合算により成績を出す。

【授業科目名】 教職実践演習（幼）		【授業の種類】 演習	【担当教員名】 細川明子・吉田しのぶ・村田健治
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 2年後期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 保育者として求められる、1) 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、2) 社会性や対人関係能力に関する事項、3) こども理解やクラス運営等に関する事項、4) 保育内容等の指導力に関する事項について総合的、横断的に学ぶとともに、新人保育者としての実践的力量を身につける。 1. これまでの授業や実習での学びを振り返り、これまでの学修の成果と課題を明確にする。 2. 模擬保育やロールプレイ、フィールドワークなどを通して、保育者として求められる幅広い教養と幼児理解や保育実践、クラス経営などに関する専門的知識や技能を身につける。 3. 積極的に情報を収集し、グループワークや討論を行うことを通して、社会性や対人関係能力を身に付ける。			
【授業の概要】 履修カルテや実習記録等をまとめたポートフォリオをもとに、授業や実習を振り返り、保育者として必要な知識・技能等の習得について確認する。具体的な課題を設定した模擬保育や事例に基づくロールプレイ、フィールドワークを通して、新人保育者に求められる実践的力量を高めるとともに、グループ討議を通して自らの課題を自覚する機会とする。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション 授業のねらい、内容、評価等について理解する。 第2回：ポートフォリオに基づき、これまでの学びと自己の課題について確認する。 第3回： } 教材研究を行い、それを活かした指導案を作成する。 第4回： } 模擬保育Ⅰ 模擬保育を通して、基本的な保育技術を学ぶ。 第5回： } 模擬保育を振り返り、基本的な保育技術を学ぶ。 第6回： } 園行事の企画・立案の基本について学ぶ。 第7回： } フィールド 園行事の実施に向けた留意事項や配慮事項を考える。 第8回： } ワーク 園行事の実施に向けたフィールドワーク 第9回： } フィールドワークを振り返る。 第10回： } 教材研究を行い、それを活かした指導案を作成する。 第11回： } 模擬保育Ⅱ 模擬保育を通して、基本的な保育技術を学ぶ。 第12回： } 模擬保育を振り返り、基本的な保育技術を学ぶ。 第13回：保育課題Ⅰ ロールプレイを通して家庭との連携の在り方について考える。 第14回：保育課題Ⅱ ロールプレイを通して、小学校教育との接続について考える。 第15回：2年間の学びを整理し、保育者に必要な資質能力について、自分の考えをまとめる。 定期試験（レポート課題）			
【テキスト名・著者名・出版社名】 幼稚園教育要領解説書 保育指導案大百科事典 授業に必要なプリントを適宜配布する。			

【参考書・参考資料等】

【学生に対する評価】

定期試験（レポート課題） 40% 模擬保育・指導案 30% 授業での課題提出 15%  
ワークシート提出 15%

【授業科目名】 保育実践演習		【授業の種類】 演習	【担当教員名】 山本晴彦・藤田千波・吉田しのぶ 村田健治・藤井和子・藤野貴代子 多田智栄子・大西光恵 榎本優人・日笠みどり
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 2年後期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 授業、実習から2年間で学んだことをグループでまとめ、卒業発表をする。			
【授業の概要】 教育実習や保育実習を通して学んだ内容や授業で学んだ内容から、乳幼児やそれを取り巻く大人の理解や発達状況の把握、個別指導や集団指導のあり方、障害児保育等保育に関する自己課題を明確にし、科目横断的な学習能力の習得を図る。 さらに、課題に即して実践と関連させながら、現状分析、研究、討議、検討を行い同じ課題について取り組む仲間と共に学習し卒業発表を行う。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション。保育実践演習の進め方について学ぶ。 第2回：興味があることについて発表し、グループを決める。 第3回：各自のテーマについて調べる。 第4回：各自のテーマについて調べる。 第5回：各自のテーマについて調べる。 第6回：各自のテーマについて調べる。 第7回：各自のテーマについて調べる。 第8回：調べたことをグループ内で発表する。調べたことをレポートとして担当教員に提出する。 第9回：グループごとに発表の準備をする。 第10回：グループごとに発表の準備をする。 第11回：グループごとに発表の準備をする。 第12回：グループごとに発表の準備をする。 第13回：グループごとに発表の準備をする。 第14回：グループごとに発表の準備をする。 第15回：グループごとに発表する。 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】 なし。			
【参考書・参考資料等】 なし。			
【学生に対する評価】 個人で調べたレポートを50%、グループ発表内容を50%とする。			

【授業科目名】 <b>教育実習Ⅱ</b>		【授業の種類】 <b>実習</b>	【担当教員名】 山本晴彦・藤田千波・吉田しのぶ 村田健治・藤井和子・藤野貴代子 多田智栄子・大西光恵・榎本優人
【授業の回数】	【時間数】 <b>80時間</b>	【開講学年・時期】 <b>2年前期</b>	【必修・選択】 <b>選択必修</b>
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】			
<p>1. 幼稚園における教育活動の実際について、体験を通して総合的に理解する。</p> <p>2. 学校内の授業や演習で学んだ科学的な知識や専門的な技術を、直接子どもと関わる中で具体化し保育者としてより確かな力を獲得していく。</p> <p>3. 幼稚園教諭としての使命感と責任感そして子どもへの愛情を深め、子どもの成長、発達に即して対応しうる実践的な能力を身につける。</p>			
【授業の概要】			
<p>幼稚園での実習</p> <p>一年次の実習を踏まえ、実習内容をより深められるように取り組んで行く。卒業後の進路に沿って選択し、担任の指導のもとに行う。</p> <p>(1) 実習の目標</p> <p>①幼稚園の保育を実践的に体験し、幼稚園教諭として必要な資質・能力・技術を修得する。</p> <p>②子どもの実態を知り、それに適した援助について学ぶ。</p> <p>③将来目標とする幼稚園教師像を明確に具体化し、そのための自己課題を明確にする。</p> <p>(2) 実習の方法</p> <p>①観察実習</p> <p>教育実習の実際について総合的に把握することを目的とし、子どもの生活や遊びの様子、子どもと保育者との相互関係などについての理解に努める</p> <p>②参加実習</p> <p>保育者の助手的な立場で、実際に幼児と触れ合いながら保育に参加する。</p> <p>③部分実習</p> <p>一日の指導のうち、ある部分だけを担当する。指導計画を立て、準備や、実行の過程を体験的に学ぶ。</p> <p>④責任実習</p> <p>最終段階の実習である。実習生が主体となり、担任保育者の指導や助言を受け、保育を担当する。「指導計画」を立て、準備、実行、反省などの流れ全てを経験する。</p>			
【授業計画】			
実習期間 9月2日(月)～9月27日(金)のうち10日間 集中実習			
【学生に対する評価】			
現場評価 70% 提出物 30%			

【授業科目名】 保育実習Ⅱ		【授業の種類】 実習	【担当教員名】 山本晴彦・藤田千波・吉田しのぶ 村田健治・藤井和子・藤野貴代子 多田智栄子・大西光恵・榎本優人
【授業の回数】	【時間数】 80時間	【開講学年・時期】 2年前期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。</li> <li>2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。</li> <li>3. 既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解する。</li> <li>4. 保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。</li> <li>5. 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。</li> <li>6. 実習における自己の課題を明確化する。</li> </ol>			
【授業の概要】			
私立保育所での実習の内容 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所の役割や機能としての具体的な取り組みの理解             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 養護と教育が一体とな行われる保育</li> <li>(2) 保育所の社会的役割と責任</li> </ol> </li> <li>2. 観察に基づく保育の理解             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 子どもの心身の状況や活動の観察</li> <li>(2) 保育士等の援助や関わり</li> <li>(3) 保育所の生活の流れや展開の把握</li> </ol> </li> <li>3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを総合的に行う保育</li> <li>(2) 入所している子どもの保護者支援及び地域の保護者等に対する子育て支援</li> <li>(3) 関係機関や地域社会との連携・協働</li> </ol> </li> <li>4. 指導計画の作成・実践・観察・記録・評価             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解</li> <li>(2) 作成した指導計画に基づく保育実践と評価</li> </ol> </li> <li>5. 保育士の業務と職業倫理             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 多様な保育の展開と保育士の業務</li> <li>(2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理</li> </ol> </li> <li>6. 自己の課題の明確化</li> </ol>			
【授業計画】			
実習期間 集中実習 8月1日(木)～9月5日(木)のうち、10日間			
【学生に対する評価】			
現場評価70% 提出物30%			

【授業科目名】 保育実習Ⅲ		【授業の種類】 実習	【担当教員名】 山本晴彦・藤田千波・吉田しのぶ 村田健治・藤井和子・藤野貴代子 多田智栄子・大西光恵・榎本優人
【授業の回数】	【時間数】 80時間	【開講学年・時期】 2年前期	【必修・選択】 選択必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 1. 児童福祉施設（保育所以外）等の役割や機能について実践を通して、理解を深める。 2. 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。 3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。			
【授業の概要】 施設実習（第2段階）の内容 (1) 実習施設の役割や機能を理解する。 (2) 子どもや利用者を理解するために、受容し共感する態度を学ぶ。 (3) 子ども、利用者の個人差や生活環境を起因とする個々のニーズの把握を行い、子どもや利用者の理解を深める。 (4) 子どもや利用者の家族への支援と具体的な対応について学ぶ。 (5) 職員間の役割分担とチームワークについて理解する。 (6) 子どもの最善の利益を尊重した関わりについて学ぶ。 (7) 施設における保育士との多様な業務と職業倫理（プライバシーの保護、秘密保持など）を理解する。			
【授業計画】 9月1日（日）～9月30日（月）のうち、10日間 集中実習			
【テキスト名・著者名・出版社名】 なし			
【参考書・参考資料等】 なし			
【学生に対する評価】 現場評価 70%、提出物 30%			

【授業科目名】 保育実習指導Ⅱ		【授業の種類】 演習	【担当教員名】 山本晴彦・藤田千波 吉田しのぶ・藤野貴代子 多田智栄子・日笠みどり
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 2年前期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。 2. 保育実習Ⅰや既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。			
【授業の概要】 1. 保育実習Ⅰの体験や学びを基に、保育実習Ⅱの意義や目的を知り、保育について総合的に学ぶ。 2. 講義や演習等で学んだ内容の関連性を踏まえ、保育への理解を深めるとともに実践力を身につける。 3. 保育の全体計画に基づく具体的な保育計画について理解し、実習に向けた保育指導案を作成する。			
【授業計画】 第1回：保育実習Ⅱの基本認識：オリエンテーション 第2回：保育実習Ⅰの振り返り：それぞれの学びをグループで討議 第3回：保育実習Ⅰの反省と課題：グループ討議のまとめを発表 新たな気づき 自己評価と課題 第4回：保育実習Ⅱの意義と目的：保育所に求められる社会的役割 多様な保育所の機能について 第5回：保育実習Ⅱに向けて：実習先の概要及び実習目標について 第6回：保育所の生活と保育者の援助：保育所の一日の生活の流れ 保育展開の把握 第7回：子どもの活動の理解：環境を通して行う保育 生活や遊びを通して行う保育の理解 第8回：実習課題の理解：保育実習Ⅱの方法の理解と課題作成 実習の際の留意事項 第9回：実習記録の書き方：保育実習Ⅱにおける記録の書き方と保育をとらえる視点 第10回：保育計画と保育指導案：保育の長期計画長期計画と短期計画の関係理解 保育士同案を書くことの意味 第11回：保育指導案の基本理解：保育指導案の書き方 項目・用語の理解 指導案作成 第12回：多様な保育のニーズの理解：保護者対応や家庭や地域との連携 地域子育て支援について 第13回：保育士の専門性の理解：保育士の仕事の理解と職業倫理 チームワークについて 第14回：保育実践に向けて：教材等の準備 保育指導案によるロールプレイ 第15回：まとめ：実習の心構えと自己課題の明確化 事前・事後レポート課題			
【テキスト名・著者名・出版社名】 ①実習ステップブック・山本美貴子、松山洋平・みらい ②保育指導案大百科事典・開仁志・一藝社			
【参考書・参考資料等】 保育所保育指針解説書			
【学生に対する評価】 授業中に課する提出物・・・100%			
※科目の性質（保育実習Ⅱの必須項目）上、特別な理由を除き、欠席は認められません。			

【授業科目名】 国語		【授業の種類】 講義	【担当教員名】 大西 光恵
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 1年前期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】 ・国語科を学ぶこと（学力観）について、自分なりの考えをもつことができるようになる。 ・「言葉による伝え合い」のための具体的な指導の方策を身につけることができるようになる。 ・小グループによるレポート発表や、作品紹介等のディスカッションを通して自分の考えを深め、自分の言葉でまとめて表現することができるようになる。			
【授業の概要】 子どもの言葉の力を伸ばすための学習指導のあり方の基礎について学ぶ。「話すこと・聞くこと」、「書くこと」「読むこと」の各領域における言葉の力を豊かに伸ばすための国語教育のあり方について学んでいく。また児童文学作品や絵本と教育の関わりについて考える。幼稚園、保育所と小学校との連携を見通しての言語表現活動や国語教育について考察していく。			
【授業計画】 第 1回：オリエンテーション 子どもの言葉の力を伸ばすために何が重要か（受講生にのぞむこと、受講上の注意点等） 第 2回：幼保、小学校との連携 幼稚園教育要領、小学校学習指導要領（国語）に示されている内容の確認 第 3回：言語表現活動と絵本の紹介文作成 第 4回：言語表現活動と絵本の指導の実際 言語表現活動を豊かに展開するために必要な知識や技術を学ぶ 第 5回：絵本から物語へと続く読書指導について学ぶ 第 6回：昔話の魅力について ストーリーテリングの実際 第 7回：日本の児童文学 宮沢賢治、新見南吉の作品を中心に児童文学史を学ぶ 第 8回：児童文学の作品紹介 新見南吉の作品（映像機器を活用して） 第 9回：二つの作品を比較して文章表現を行い、作品分析を行う 第10回：聞く力、言葉による伝え合いの重要性と実際 第11回：小学校「国語科」の目標と内容についての系統をふまえた概説、音声言語表現の実際 第12回：国語科教育が直面している課題、これからの国語力に求められること ブックトーク台本作成 第13回：よりよい授業づくりのための五つのポイント ブックトークの実際 第14回：言葉の力とメタ認知 言葉の力を高めるために求められるメタ認知の導き 第15回：まとめ 受講生各自の学習ポートフォリオを活用したふり返り 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】 文部科学省『小学校学習指導要領解説国語編』 東洋館出版社			
【参考書・参考資料等】			

『幼稚園教育要領解説』、『国語科授業再生のための5つのポイントーよりよい授業づくりをめざしてー』 堀江裕爾 明治図書 『本・子ども・絵本』中川李枝子 大和書房

【学生に対する評価】

定期テスト60%、レポート、提出物、グループワーク発表内容40%

【授業科目名】 人権教育		【授業の種類】 講義	【担当教員名】 細川 明子
【授業の回数】 8回	【時間数】 15時間	【開講学年・時期】 1年後期	【必修・選択】 必修
<p>【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】</p> <p>価値観が多様化する社会において、社会を構成する一員として、保育者として、誰もが個人として幸福に生きるために欠くことができない人権を互いに認め合い、尊重する人権尊重の考え方や行動の在り方を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、人権の意味、人権の歴史に関する基礎的知識を理解する。</li> <li>2、子どもの人権を守る立場に立ち、保育者としての言動の在り方を理解する。</li> <li>3、身近な人権課題に関心を寄せ、自分の考えを持ち、話し合うことができる。</li> <li>4、アクティビティを通して人権感覚を高め、自他の人権を大切にできる態度で関わるができる。</li> </ol>			
<p>【授業の概要】</p> <p>人権に関する歴史や現代社会における人権問題について、資料やディスカッションを通して概説する。人権に関わる基礎的事項を理解した上で、自分の人権と他者の人権との関わりについて考える。特に人間形成の基礎を培う幼児期に携わる保育者として、人権感覚を高め、子どもの人権を守る保育のあり方について考えを深める。授業では、人権に関するアクティビティを、グループワークとして行う。また、人権にかかわる課題について、新聞記事などからトピック的に取り上げ、考える。</p>			
<p>【授業計画】</p> <p>第 1回：オリエンテーション。人権とは何かを考える。</p> <p>第 2回：人権の原則について理解する。</p> <p>第 3回：世界人権宣言にいたるまでの人権の歴史について理解する。</p> <p>第 4回：身近な生活の中にある様々な人権問題について考える。</p> <p>第 5回：児童虐待など子どもの人権について、事例から考える。</p> <p>第 6回：障害観の変遷や障害者差別など、障害者の権利について考える。</p> <p>第 7回：女性の権利について考える。</p> <p>第 8回：情報化社会における「同和問題」について考える。</p> <p>定期試験（レポート課題）</p>			
<p>【テキスト名・著者名・出版社名】</p> <p>テキストは使わない。授業で配付するプリント資料やワークシートを使用する。</p>			
<p>【参考書・参考資料等】</p> <p>授業で適宜紹介する。</p>			
<p>【学生に対する評価】</p> <p>期末レポート課題50%、授業での課題30%、ワークシート提出20%</p>			

【授業科目名】 音楽Ⅱ		【授業の種類】 演習	【担当教員名】 福田 真梨奈
【授業の回数】 30回	【時間数】 60時間	【開講学年・時期】 1年通年	【必修・選択】必修 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 楽典の基礎的な意味を理解し、正しく演奏する為の知識を身に付ける。</li> <li>2. ピアノ・声楽の演奏法について理解し、習得する。</li> <li>3. 打楽器・指揮・指導法について理解し、習得する。</li> <li>4. 楽譜や音階・和音を正しく理解し、演奏できるようになる。</li> <li>5. 楽曲に対する理解をより一層深め、自身が音楽を楽しむことによって豊かな音楽表現を出来るようになることを目指す。</li> </ol>			
【授業の概要】			
<p>幼児期の生活において、日々の音楽活動は重要である。保育者は幼児と音楽を通して関わっていくために音楽の基礎知識・能力を持つ必要がある。様々な状況に対応出来るように、基礎的な音楽理論とソルフェージュ、演奏技術を身に付ける。</p> <p>引き続き、基礎的な音楽知識と能力の学習をしながら、様々な奏法や様々な楽器を演奏する技術を習得する。そしてグループワークを通して共に演奏する喜びを知る。</p>			
【授業計画】			
第 1 回：はじめに オリエンテーションと音楽の基礎知識を確認			
第 2 回：楽譜の基礎知識 音符記号と譜表についてテキストで学ぶ			
第 3 回：音名① 日本語読みとイタリア語読み			
第 4 回：音名②英語読み			
第 5 回：音符と休符 音符、休符の種類、音価を学ぶ			
第 6 回：リズムと拍子① 演奏しながらリズムと拍子の種類を学ぶ			
第 7 回：リズムと拍子②			
第 8 回：打楽器 打楽器の名称、演奏の仕方を学ぶ			
第 9 回：中間まとめ これまでの復習、理解度の確認			
第 10 回：音程① 音程間隔の名称を学び、聴き取る練習			
第 11 回：音程②			
第 12 回：合唱① 共に歌う喜びを感じる			
第 13 回：アンサンブル 前期で学んだ事を生かし、グループワークを行う			
第 14 回：前期まとめ これまでの復習、理解度の確認			
第 15 回：前期まとめ これまでの復習、理解度の確認			
第 16 回：音階と調① スケールとカデンツをピアノで弾きながら音階と調性を学ぶ			
第 17 回：音階と調②			
第 18 回：和音① ピアノで音程間隔を確認しながら和音について学ぶ			

第19回：和音②

第20回：コードネーム①ピアノで音程間隔を確認しながらコードネームについて学ぶ

第21回：コードネーム②

第22回：伴奏法① 伴奏の付け方を学び、ピアノ伴奏を創作する中間到達度の確認、実技発表

第23回：伴奏法② 指揮の仕方を学び、グループワークで練習する

第24回：中間まとめ これまでの復習、理解度の確認

第25回：合唱② 共に歌う喜びを感じる

第26回：様々な奏法 トレモロ、グリッサンドなど

第27回：アンサンブル① 簡単な室内楽アンサンブルをグループで行い発表

第28回：アンサンブル②

第29回：後期まとめ これまでの復習、理解度の確認

第30回：後期まとめ これまでの復習、理解度の確認

※上記の講義内容以外にも年間を通して以下の演習を行う

- ・発声練習
- ・「コールユーブンゲン」などを使ったソルフェージュ
- ・子どもうたの弾き歌い
- ・スケールとカデンツ
- ・少人数でのアンサンブル演奏
- ・合唱、輪唱
- ・初見練習
- ・聴音
- ・ハンズクラップ、打楽器によるリズム叩き

【テキスト名・著者名・出版社名】

①音符と鍵盤でおぼえるわかりやすい楽典・川辺 真・音楽之友社

②学生版コールユーブンゲン・Franz=Wullner・全音楽譜出版

【参考書・参考資料等】

行進・リズム曲集（酒田富治 著、白眉学芸社）

【学生に対する評価】

中間まとめ40%、定期まとめ60%

【授業科目名】 体育理論		【授業の種類】 講義	【担当教員名】 井原 一久
【授業の回数】 8回	【時間数】 16時間	【開講学年・時期】 1年前期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 幼児期の発育発達におけるの身体的特徴を学ぶ。 運動遊びを組み立てるときに配慮しなければならない、めあてなどの考え方を学ぶ。 安全な運動遊びの場づくりを理解する。			
【授業の概要】 幼児の発育発達における身体的特徴や、身体運動の重要性、教育的意義を学習する。 運動指導を実施するにあたり、必要な運動遊びの知識や安全管理などを学習する。 前期の後半部分を体育実技に代わり、体育理論の講義を実施する。			
【授業計画】 第 1回：ガイダンス オリエンテーション (受講者に望むこと・受講上の注意点等) 第 2回：運動指導の意義① 講義→幼児期の特徴を理解し、運動指導を行う心構えを学ぶ 第 3回：幼児期の発育発達② 講義→幼児と大人の身体の特徴 発育発達における基礎理論の習得 第 4回：体力と生活習慣③ 講義→子どもの体力と生活習慣の関係の中で運動処方目的を理解する 第 5回：運動遊びの必要性④ 講義→子どもを取り巻く社会環境の変化から運動遊びの必要性を理解する 第 6回：安全管理⑤ 講義→安全管理、けがの対処法、場づくり、用具の工夫などを学ぶ 第 7回：運動能力の測定⑥ 講義→幼児の体力・運動能力を正しく理解するための測定と評価を学ぶ 第 8回：幼児期運動指針⑦ 講義→幼児期運動指針の背景を学び、これからの保育と運動との関係を学ぶ 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】 必要に応じてプリントを配布する			
【参考書・参考資料等】			
【学生に対する評価】 リフレクション…学びの確認・疑問点による審査 (50%) レポート提出…指導案 (50%)			

【授業科目名】 体育実技		【授業の種類】 実技	【担当教員名】 井原 一久
【授業の回数】 2 2 回	【時間数】 4 5 時間	【開講学年・時期】 1 年前期・後期	【必修・選択】 必修 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 保育現場で実施されている運動遊びの指導計画及び実践方法を習得する。 教材・教具について理解を深めるのみならず、保育現場での運動時の指導姿勢や指導案を学ぶ。			
【授業の概要】 前期：幼児期における体の発育発達に応じた運動遊びを体験し、そのポイントや基礎知識を習得する。（前期の前半部分に体育実技を実施する。） 後期：幼児のリズム、表現あそび、球技などの集団運動などを中心に理解を深め、その実践方法について学習する。			
【授業計画】			
前期			
第 1 回：ガイダンス 動きづくり 感覚づくり（逆さ・回転・バランス感覚） スキップ・ギャロップへの導入			
第 2 回：運動会種目① 集団競技 親子種目の実践			
第 3 回：伝承遊び 竹馬など、日本の古くから伝わる運動遊び			
第 4 回：コーディネーション 運動① 一人で行うコーディネーション運動の実践			
第 5 回：コーディネーション 運動② スカーフコーディネーション運動の実践			
第 6 回：ボールゲームと リフレクション ボールレクリエーションゲームの実践 本教科を通じた学びのヒアリング			
第 7 回：バトミントンとリフレクション バトミントンの実践 本教科を通じた学びのヒアリング			
第 8 回：障がい者スポーツ ボッチャの実践 障がい者への指導メニュー			
後期			
第 1 回：コーディネーション運動② 集団で行うコーディネーション運動			
第 2 回：運動会種目② パラバルーン 集団種目			
第 3 回：リズム・表現あそび① リズム化能力構築の実践			
第 4 回：リズム・表現あそび② 幼児向けリズム体操の実践			
第 5 回：リズム・表現あそび③ 幼児向けリズム体操の実践			
第 6 回：ドッチボール 転がしドッチからドッチボール			
第 7 回：器械体操① マット・とびばこ・鉄棒・平均台の実践			
第 8 回：器械体操② マット・とびばこ・鉄棒・の補助の習得			
第 9 回：器械体操③ マット・とびばこ・鉄棒の補助の習得			
第 10 回：なわ運動遊び なわとび（短縄・長縄）の実践			

第11回：幼児体育指導法① なわ運動指導実習

第12回：幼児体育指導法② ボール運動指導実習

第13回：幼児体育指導法③ 運動会種目指導実習

第14回：ボールゲームとリフレクション バレーボール 本教科を通じた学びのヒアリング

第15回：ボールゲームとリフレクション バスケットボール 本教科を通じた学びのヒアリング

【テキスト名・著者名・出版社名】

必要に応じてプリントを配布する

【参考書・参考資料等】

【学生に対する評価】

①実技（50%） ※前期に2度実技テスト、後期指導演習テストにより評価する

②リフレクションにおける体育指導における理解度のヒアリング（50%）

【授業科目名】 英語コミュニケーション		【授業の種類】 演習	【担当教員名】 宮田 幸雄
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 1年前期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 1. 正しい発音での場面に応じた日常英会話ができるようになる。 2. 英会話だけでなく常識的な外国の文化や習慣を理解し、日常生活及び将来の勤務先で自然に外国人に接することができるようになる。			
【授業の概要】 1. テキストを使用して保育園を設定した英会話を学習 2. テキストに加え、他の教材も活用し日常英会話及び外国の文化と習慣を学習 3. こどもの英語の歌			
【授業計画】 第 1回：自己紹介（自己紹介の見本を配布）、講義内容紹介 第 2回：簡単な質問と答えの練習。保育園で働く人たちを英語で紹介する。 第 3回：外国人の子どもの入園時、初対面のあいさつを学習し練習する。 第 4回：時間や数の表現を学習する。 第 5回：様々な場所の名称や方向を示す語句及び道順を説明する表現を学習する。 第 6回：子どもたちの遊びや園庭の遊具を表す語句を学習する。 第 7回：登園、降園時の保護者と保育者の会話の中で天候、感情、状態の表現を学習し練習する。 第 8回：保育者（5歳児クラス担当一例）の一日の仕事についての表現を学習する。 第 9回：保育園での昼食風景から食品や献立、分量や好き嫌いの表現を学習する。 第10回：子どもが言う排泄に関する表現を学習する。 第11回：けんかや物の取り合いをしている子供たちへの保育者の様々な言葉かけの表現を学習する。 第12回：保護者との電話での応対、メモに書いて伝える表現を学習する。 第13回：遠足に行く場所や交通手段を伝える表現を学習する。 第14回：けがや病気に関する表現を学習する。 第15回：前期授業内容の復習 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】 保育の英会話 赤松直子、久富陽子 萌文書林			
【参考書・参考資料等】			
【学生に対する評価】 1. 自己紹介をするための英語での作文の評価（10%） 2. 復習の小テストの評価（20%） 3. 授業中の発表回数等の評価（10%） 4. 学期末試験（60%）			

【授業科目名】 音楽Ⅰ		【授業の種類】 演習	【担当教員名】 榎本優人・日笠みどり・有居恵 稲富明子・内田恵・浦あゆみ 川村尚子・中桐綾奈・山脇孝子
【授業の回数】 30回	【時間数】 60時間	【開講学年・時期】 1年通年	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピアノの基礎技能の修得する（バイエルの楽曲を的確に演奏できるようになる）</li> <li>・季節の歌、生活の歌など保育の現場に必要な歌を習得する</li> <li>・楽譜の読み方を理解する</li> </ul>			
【授業の概要】			
<p>保育現場に必要なピアノの基礎技能を修得するため、個人のレベルに合わせたレッスンを行います。ピアノ教則本、子どもの歌から課題曲に取り組み、音楽への理解を深めるとともに、子どもたちの前で余裕を持って音楽表現ができることを目指します。</p>			
【授業計画】			
第 1回 : オリエンテーション 受講にあたっての心構え			
第 2、3回 : バイエル50番、「むすんでひらいて」、スケールとカデンツ 4分音符と8分音符、手遊び歌の歌詞、ハ長調のコード、スケール			
第 4、5回 : バイエル65番、「大きなくりの木の下で」 4分の4拍子、2分音符、8分の6拍子、レガート奏法			
第 6、7回 : リズム曲「マーチ」、「おべんとう」 マーチのリズム、ハ長調、ト長調の伴奏法、付点がついた音符のリズム			
第 8、9回 : バイエル66番、「とんぼのめがね」 3連符の伴奏、タイの歌唱、母音の発音			
第10、11回 : バイエル92番、「おかえりのうた」 6度和音、タイの奏法、母音の発音			
第12、13回 : バイエル95番、リズム曲「ワルツ」、「チューリップ」、「たなばたさま」 3度音程の奏法、ワルツのリズム、情感をこめた歌唱			
第14回 : 弾き歌いの自由曲、到達度の確認、遊びの中の音楽、実技発表への準備、確認			
第15回 : 前期末まとめ 実技発表			
第16、17回 : リズム曲「ラン」、「まつぼっくり」「やまのおんがくか」 ランのリズム、スタッカート奏法、ハ長調、ト長調の伴奏法と歌唱			
第18、19回 : バイエル97番 強弱表現・変化のある伴奏			
第20、21回 : バイエル78番 アクセントやドルチェなどの表現、アフタクト			
第22回 : 中間まとめ 中間到達度の確認、実技発表			
第23、24回 : バイエル94番、「ジングルベル」、「お正月」 装飾音符、手の交差、季節の歌と伴奏			

第25、26回：「あくしゅでこんにちは」「はたけのポルカ」  
イ短調、ニ長調の伴奏法、転調、独立した伴奏

第27、28回：バイエル88番、リズム曲「スキップ」  
装飾音符、オクターブ記号、スキップのリズム

第29回：弾き歌いの自由曲、到達度の確認 輪唱遊びの音楽、実技発表への準備、確認

第30回：1年間のまとめ、実技発表

【テキスト名・著者名・出版社名】

1. こどもの歌100 井戸和秀 チャイルド本社
2. 標準バイエルピアノ教則本 全音楽譜出版社出版部 全音楽譜出版社

【参考書・参考資料等】

行進・リズム曲集（酒田富治 著、白眉学芸社）

【学生に対する評価】

実技発表60%、平常実技到達度40%

【授業科目名】 保育原理 I		【授業の種類】 講義	【担当教員名】 藤野 貴代子
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 1年前期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 1. 保育の意義及び目的、保育に関する法令及び制度を理解する。 2. 保育所保育指針における保育の基本について理解する。 3. 保育の思想と歴史的変遷を知り、保育の現状と課題について理解する。			
【授業の概要】 保育は、楽しく、やりがいがあり、喜びに満ちた仕事の側面がある一方で、大変責任のある、厳しいさ難しい仕事である。保育原理をしっかり学ぶことが、その厳しさ、難しい仕事を乗り越え、より深い楽しみややりがい、喜び、大きな自己実現につながることを学ぶ。			
【授業計画】 第 1回：オリエンテーション : 受講者に望むこと・受講上の注意点等 第 2回：保育の理念と概念 : 育つこと・育てること、保育の理念、保育の概念 第 3回：保育の社会的役割と責任 : 保育所に期待される役割と社会的責任 第 4回：保育の制度的位置づけ : 日本の保育制度、社会的養護と保育 第 5回：子どもの育ちと発達 : 発達の個人差と保育と発達の原理 第 6回：保育の行われる保育施設の仕組み : 保育施設概要と社会的責任 第 7回：保育所保育指針に基づく保育 : 保育所保育指針の制度的位置づけ 第 8回：生活と遊びを通して行う保育所保育 : 3歳未満児の保育の基本、3歳児未満児の発達と保育 第 9回：3歳未満児の保育のねらいと内容と方法 : 乳児保育の内容 第10回：3歳未満児の保育のねらいと内容と方法 : 3歳以上の保育の基礎、乳幼児期において育みたい資質・能力 第11回：3歳児以上児の保育のねらいと内容と方法 : 3歳以上の保育の基礎、乳幼児期において育みたい資質・能力 第12回：3歳児以上児の保育のねらいと内容と方法 : 3歳児以上児の保育5領域のねらい及び内容 第13回：保育計画・実践および評価 保育計画の意義、指導計画、保育の計画と実践 第14回：保育の現状と課題 : 子育てにかかわる現状と課題、家庭環境の現状と課題 第15回：保育の思想と歴史の変遷と保育の現状 : 日本、諸外国の保育の思想と歴史・日本の保育現状 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】 つながる保育原理 著者名 井上孝之・小原敏郎・三浦主博 出版社名 (株)みらい			
【参考書・参考資料等】 保育所保育指針解説 幼稚園教育要領解説 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説			
【学生に対する評価】 定期試験 60% 提出物 40%			

【授業科目名】 子ども家庭福祉Ⅰ		【授業の種類】 講義	【担当教員名】 山本 晴彦
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 1年前期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子ども家庭福祉の制度や実施体系、現状と課題等について理解する。 3. 子ども家庭福祉の人権擁護、動向と展望について理解する。			
【授業の概要】 子どもと家庭を取り巻く状況は深刻さを増し、子どもの最善の利益にかかわる保育者の役割として、子どもの保育だけでなく、保護者支援も重要になっている。子どもにとって大切な環境である家庭も含めて、子どもと家庭の現状と課題について、また子ども家庭福祉制度について説明する。			
【授業計画】 第 1回：子ども家庭福祉とは何か 子どもとは何か、子ども家庭福祉とは何か 第 2回：現代社会と子ども家庭福祉 現代と子ども家庭福祉ニーズ 第 3回：子ども家庭福祉の理念 子ども家庭福祉の理念 第 4回：子どもの家庭福祉の歴史的展開 明治・大正期の社会事業、児童福祉法の制定とその後 第 5回：子どもの権利擁護に関する取り組み 理念の国際的動向、子どもの権利条約 第 6回：子ども家庭福祉の法体系 児童福祉法、母子及び父子並びに寡婦福祉法 第 7回：子ども家庭福祉の実施体制 子ども家庭福祉の行政機関、利用方式 第 8回：児童福祉施設と専門職 児童福祉施設、子ども家庭福祉の専門職 第 9回：少子化と地域子育て支援 子育て支援施策の展開、地域子育て支援 第10回：母子保健と子どもの健全育成 母子保健施策、子どもの健全育成 第11回：多様な保育ニーズへの対応 就学前の子どもの保育・教育施設 第12回：障がいのある子どもへの支援 障がいのある子ども、障がい児福祉の制度 第13回：子ども虐待・DVとその防止、社会的養護 子ども虐待・DVの種類・予防 社会的養護の枠組み・体系 第14回：少年非行への対応、ひとり親家庭等への支援 少年非行への対応、ひとり親家庭への支援 第15回：子ども家庭福祉の動向と展望 子ども家庭福祉の動向と新しい理念、現在の課題 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】 子ども家庭福祉（最新 保育士養成講座 第3巻） 『最新 保育士養成講座』総括編纂委員会 全国社会福祉協議会			
【学生に対する評価】 定期試験 60%、課題提出 10%、小テスト 30%			

【授業科目名】 社会福祉		【授業の種類】 講義	【担当教員名】 山本 晴彦
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 1年後期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 1. 社会福祉の意義と歴史的変遷について理解する。 2. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 3. 社会福祉における相談援助、利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。			
【授業の概要】 保育者が担う保育は、社会福祉の一分野である子ども家庭福祉に位置づけられる。保育者は社会福祉全体の基本的な仕組みなどについて理解しておくことが必要とされる。社会福祉の概念や理念、歴史的展開、法体系、行財政、相談援助、利用者保護の仕組みについて説明する。			
【授業計画】 第 1回：保育における社会福祉 日本の人口動向、人々の生活と社会福祉、保育者と社会福祉 第 2回：社会福祉の概念と理念（1）ノーマライゼーション、自立生活運動 第 3回：社会福祉の概念と理念（2）バリアフリー、ソーシャル・インクルージョン 第 4回：社会福祉の歩み（1）社会福祉のルーツ、イギリスの社会福祉の歩み 第 5回：社会福祉の歩み（2）日本の社会福祉の歩み 第 7回：社会福祉の制度と法体系（1）法体系、社会福祉法 第 8回：社会福祉の制度と法体系（2）社会福祉六法、その他の関連法 第 9回：社会福祉行政と実施機関 国の行政機関、福祉事務所、身体障害者更生相談所 第10回：社会福祉の財政・施設 費用負担、サービスの利用方法、社会福祉施設 第11回：社会福祉の専門職、社会保障および関連制度 社会福祉専門職、社会保障の体系 第12回：相談援助（1）相談援助の理論・機能・対象 第13回：相談援助（2）相談援助の方法、展開過程 第14回：利用者保護の仕組み（1）利用者の権利擁護 第15回：利用者保護の仕組み（2）福祉サービスの質の保障 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】 社会福祉（最新 保育士養成講座 第4巻） 『最新 保育士養成講座』総括編纂委員会 全国社会福祉協議会			
【学生に対する評価】 定期試験 60%、課題提出 10%、小テスト 30%			

【授業科目名】 社会的養護 I		【授業の種類】 講義	【担当教員名】 池永 浩造
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 1年後期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 社会的養護の施設養護としての児童福祉施設における子どもの代替的支援や、またその支援に関係する様々な制度や法律について学びを深める。そして、施設入所児の入所理由に関する家族への支援プロセスも学び理解することで、施設保育士としての専門的役割を明確にし、施設現場での通用しうる保育力をつけていく。			
【授業の概要】 社会的養護の基礎的な概念及び児童福祉施設の目的や役割などを概説すると共に、その法的根拠や制度のあり方、権利擁護の姿勢、自立などの支援について、また児童福祉施設の歴史などにも触れ、社会的養護の必要性と実践の場としての児童福祉施設の総合的理解を深める。 (講義以外に、「ビデオ視聴」などの学習方法を用いて授業を行っていく)			
【授業計画】 第 1 回：社会的養護の基本① オリエンテーション / 社会的養護の理解 第 2 回：社会的養護の基本② 児童福祉の理念と施設支援の基本的方向性 第 3 回：社会的養護の体系 施設養護と家庭的養護・家庭養護での支援 第 4 回：社会的養護の歴史 明治から昭和にかけての施設の歩み 第 5 回：社会的養護の現状 施設における小規模化への取り組みと課題 第 6 回：社会的養護の役割① 施設における養育支援と課題 第 7 回：社会的養護の役割② 施設における自立支援の意味 第 8 回：社会的養護の役割③ 施設における家庭（家族）支援の必要性 第 9 回：社会的養護の役割④ 施設と児童相談所など専門機関との連携 第 10 回：社会的養護の仕組み 施設運営に関する基準や措置制度 第 11 回：社会的養護の実践① 施設における養護の考え方と個別的対応 第 12 回：社会的養護の実践② 施設の地域への連携と役割 第 13 回：社会的養護と虐待 被虐待児の施設支援と権利擁護 第 14 回：社会的養護と職員 施設職員の役割と専門性 第 15 回：まとめ 社会的養護 I の総括 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】 授業に必要な資料を適宜配布します。(テキストは使用しません)			
【参考書・参考資料など】			
【学生に対する評価】 成績は「定期試験 60%」「課題レポートなど 40%」の方法で評価します。			

【授業科目名】 保育者論		【授業の種類】 講義	【担当教員名】 吉田 しのぶ
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 1年前期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 保育者の専門性を理解し、子どもの人間的な成長に適切にかかわり、社会に貢献するために必要な「知識」「スキル」を獲得する。			
【授業の概要】 保育者の役割と倫理について理解し、保育者に求められている専門的な知識・技能を学び魅力ある保育者になるための基本姿勢を修得する。			
【授業計画】 第 1回：「保育者の役割」「オリエンテーション／保育者の仕事を理解する」 第 2回：「保育者の倫理」「専門性の倫理とは、倫理綱領を理解する」 第 3回：「保育者の資格と責務」「保育士・幼稚園教諭の資格について理解する」 第 4回：「養護と教育」「保育所保育における「養護」「保育」、幼稚園の「教育」について理解する」 第 5回：「保育者の資質と能力」「保育者の求められている資質・能力」 第 6回：「専門的な知識・技能・判断」「専門性を理解する」 第 7回：「保育の省察」「省察的実践者として、保育の質の向上とPDCAサイクルについて」 第 8回：「保育課程と専門性」「省察的実践者として、保育の質の向上とPDCAサイクルについて」 第 9回：「保育者の自己評価」「自己評価、外部評価の活用と課題について理解する」 第10回：「協働」「職員の協働性・協力体制・連携の重要性について理解する」 第11回：「専門機関との連携」「医療機関・保健機関・療育機関との連携について理解する」 第12回：「保護者及び地域との連携」「欠かせない連携や協働」について理解する」 第13回：「家庭的保育者等の連携」「求められる家庭的保育の在り方について理解する」 第14回：「専門性の発達」「専門性と同僚性を理解する」 第15回：「キャリアの形成」「保育カンファレンス、研修と研鑽、生涯の学びについて理解する」 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】 保育者論 ・ 矢藤 誠慈郎・天野 珠路 ・ 中央法規出版			
【参考書・参考資料等】 保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領			
【学生に対する評価】 1. 定期試験 60%      2. 提出物 40%			

【授業科目名】 教職概論		【授業の種類】 講義	【担当教員名】 細川 明子
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 1年前期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】			
<p>全体目標</p> <p>現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。</p> <p>(1) 教職の意義に関すること</p> <p>一般目標：我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する。</p> <p>到達目標：1) 公教育の目的とその担い手である教員の存在意義を理解している。</p> <p>2) 進路選択に向け、他の職業との比較を通して、教職の職業的特徴を理解している。</p> <p>(2) 教員の役割に関すること</p> <p>一般目標：教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解する。</p> <p>到達目標：1) 教職観の変遷を踏まえ、今日の教員に求められる役割を理解している。</p> <p>2) 今日の教員に求められる基礎的な資質能力を理解している。</p> <p>(3) 教員の職務内容に関すること</p> <p>一般目標：教員の食内容の全体像や教員に課せられた服務上・身分上の義務を理解する。</p> <p>到達目標：1) 幼児、児童及び生徒への指導及び指導以外の校務を含めた教員の職務の全体像を理解している。</p> <p>2) 教員研修の意義及び制度上の位置づけ並びに専門職として適切に職務を遂行するための生涯にわたって学び続けることの必要性を理解している。</p> <p>3) 教員に課せられる服務上、身分上の義務及び身分保障を理解している。</p> <p>(4) チーム学校への対応に関すること</p> <p>一般目標：学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家と連携・分担して対応する必要性について理解する。</p> <p>到達目標：1) 校内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解している。</p>			
【授業の概要】			
<p>幼稚園教諭2種免許状を取得するにあたって、教職について幅広い観点から入門的講義を行う。学校教育全般にわたる基礎的な内容を踏まえ、教育の目的、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について理解するとともに、学校教育や教員に関わる今日的課題について学ぶ。各自が受けてきた教育経験を振り返りながら、自らが目指す保育者像を探求し、教職に就くという自覚と意欲を高める。</p>			

【授業計画】

- 第 1回：オリエンテーション 講義の概要を理解する。保育者志望度を確認する。
- 第 2回：教職の意義（1）野生児の事例の検討を通して、教職の意義を考える。
- 第 3回：教職の意義（2）人間の発達に関わる職業として、教職の意義を考える。
- 第 4回：教職の意義（3）教育の目的と教職に意義について理解する。
- 第 5回：教育観の変遷（1）教育者の子ども観・教育観を調べる。
- 第 6回：教育観の変遷（2）教育者ごとに調べた内容をまとめ、発表原稿を作成する。
- 第 7回：教育観の変遷（3）発表から、子ども観と教育観の変遷をまとめる。5～7回の作成物提出
- 第 8回：幼稚園教育（1）学校教育における幼稚園教育の特徴と教師の役割について学ぶ。
- 第 9回：幼稚園教育（2）幼稚園における組織と他機関との連携について学ぶ。
- 第10回：教師の歴史 教職観の歴史と今日の教師に求められる役割を学ぶ。
- 第11回：教師の専門性（1）教員の任用とサービスの概要について理解する。
- 第12回：教師の専門性（2）教師の力量形成と研修制度について理解する。
- 第13回：教師の専門性（3）幼稚園教員として求められる資質・能力について考える。
- 第14回：教師の専門性（4）他の専門職員の職務と比較し、教員の職務について検討する。
- 第15回：まとめ 目指す保育者像について意見交換し、保育者になる自覚と意欲を持つ。  
目指す保育者像についてレポート提出。

定期試験

【テキスト名・著者名・出版社名】

新訂「教職入門」（古橋和夫編、萌文書林）

【参考書・参考資料等】

幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、保育所保育指針解説  
そのほか、ワークプリント、必要資料を適宜配布

【学生に対する評価】

定期試験（60％）、提出物（30％）、グループワーク等での発表内容（10％）

【授業科目名】 発達心理学 I		【授業の種類】 講義	【担当教員名】 多田 智栄子
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 1年後期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。 一般目標：幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。 到達目標：1幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。 1乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。			
【授業の概要】 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。			
【授業計画】 第 1回：生涯発達とは何か（1）オリエンテーション（受講者に望むこと・受講上の注意点等）、生涯発達の定義・遺伝と環境どちらが影響を及ぼすのか 第 2回：生涯発達とは何か（2）エリクソンの発達理論・ハヴィガーストの発達課題 第 3回：胎児期の発達 生命の始まり、10ヶ月の奇跡 第 4回：新生児期の発達 新生児の不思議なパワー 第 5回：乳児期の発達（1）赤ちゃんの成長の道のり 第 6回：乳児期の発達（2）愛着の形成、最も大切な「絆」 第 7回：幼児期の発達（1）自我の発達、イヤイヤ期と自立 第 8回：幼児期の発達（2）「言葉」、「遊び」、「思考」はどのように発達するのか 第 9回：児童期の発達 ギャングエイジと呼ばれる時代 第10回：青年期の発達（1）友人が最も大切な存在になるわけとは 第11回：青年期の発達（2）アイデンティティーを模索する 第12回：成人期の発達 中年期の危機、再びアイデンティティーを模索する 第13回：老年期の発達 高齢者がいきいき生きていくために 第14回：発達を支援する 障がいのある幼児、児童、生徒の理解と支援 第15回：まとめ 全体のまとめ、質疑応答 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】 使用しない 資料プリントを配布する			
【参考書・参考資料等】			
【学生に対する評価】 定期試験60% 演習・発表20% レポート20%			

【授業科目名】 幼児理解		【授業の種類】 演習	【担当教員名】 多田 智栄子
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 1年前期	【必修・選択】 必修
<p>【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】</p> <p>幼児理解は、幼稚園教育のあらゆる営みの基本となるものである。幼稚園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができる。</p> <p>(1) 幼児理解の意義と原理  一般目標：幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解する。  到達目標：1) 幼児理解の意義を理解している。  2) 幼児理解から発達や学びを捉える原理を理解している。  3) 幼児理解を深めるための教師の基礎的な態度を理解している。</p> <p>(2) 幼児理解の方法  一般目標：幼児理解の方法を具体的に理解する。  到達目標：1) 観察と記録の意義や目的・目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を例示することができる。  2) 個と集団の関係を捉える意義や方法を理解している。  3) 幼児のつまずきを周りの幼児との関係やその他の背景から理解している。  4) 保護者の心情と基礎的な対応の方法を理解している。</p>			
<p>【授業の概要】</p> <p>幼児理解は、幼稚園教育のあらゆる営みの基本となるものである。幼稚園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考える。</p>			
<p>【授業計画】</p> <p>第 1回：幼児を理解すること：オリエンテーション（幼児理解の意義、受講者に望むこと・受講上の注意点等）幼稚園教育の意義</p> <p>第 2回：幼児の発達理解（1）幼児期の発達や学びの過程の理解（新要領の3つの資質）</p> <p>第 3回：幼児の発達理解（2）幼児期の身体的発達（遊びを通して）</p> <p>第 4回：幼児の発達理解（3）幼児期の心理的・社会的発達（けんかや対立を通して）</p> <p>第 5回：幼児の発達理解（4）幼児期の心理・社会的発達（友達関係の広がりを通して）</p> <p>第 6回：幼児の発達理解（5）児童期への見通し（幼児期の終わりまでに育ってほしい姿）</p> <p>第 7回：保護者支援を学ぶ（1）保護者の心情を理解する</p> <p>第 8回：保護者支援を学ぶ（2）親子関係づくりへの支援・基本的対人関係のトレーニング</p> <p>第 9回：気になる幼児とその保護者への理解と対応（1）  事例から学ぶ：自己主張できない子ども（観察と記録からとらえる）</p>			

第10回：気になる幼児とその保護者への理解と対応（2）

事例から学ぶ：保育者をわざと怒らせようとする子ども（観察から評価する）

第11回：気になる幼児とその保護者への理解と対応（3）

事例から学ぶ：障がいのある子どもを支援する（幼稚園におけるインクルーシブ教育について学ぶ）

第12回：気になる幼児とその保護者への理解と対応（4）

事例から学ぶ：園内の協力体制と専門機関との連携

第13回：「個と集団」で子どもを理解する（1）「個と集団」を育てていくための保育者の資質

第14回：「個と集団」で子どもを理解する（2）子どもどうしがお互いに認め合える学級集団づくり

第15回：まとめ

定期試験

【テキスト名・著者名・出版社名】

よくわかる乳幼児心理学 内田伸子編 ミネルヴァ書房

【参考書・参考資料等】

なし

【学生に対する評価】

定期試験60% 演習・発表20% レポート20%

【授業科目名】 子どもの保健		【授業の種類】 講義	【担当教員名】 山階 真生
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 1年前期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。			
【授業の概要】 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解し、子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について理解する。子どもの健康状態、疾病と予防法及び適切な対応について理解する。			
【授業計画】 第1回：保健活動の意義と目的 第2回：子どもの出生と母子保健の意義 第3回：現代社会における子どもの健康に関する課題 第4回：子どもの身体発育と運動機能の発達 第5回：子どもの生理機能の発達 第6回：子どもの生理機能の発達 第7回：子どもの虐待防止、子どもの心身の健康状態とその把握 第8回：子どもの感染症とその対応 第9回：子どもの感染症とその対応 第10回：新生児期にわかる先天性の病気とその対応 第11回：アレルギー疾患の特徴とその対応 第12回：慢性疾患の特徴とその対応 第13回：保育所でよく見かける病気 第14回：子どもの健康診断と関係機関との連携 第15回：復習 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】 授業で現場で役に立つ！子どもの保健テキスト 小林 美由紀 診断と治療社			
【参考書・参考資料等】			
【学生に対する評価】 定期試験 60% レポート 10% 提出物 15% 授業時のワークシート演習 15%			

【授業科目名】 子どもの食と栄養		【授業の種類】 演習	【担当教員名】 小島 京子
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 1年後期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】			
<p>1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。</p> <p>2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。</p> <p>3. 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する。</p> <p>4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。</p> <p>5. 関連するガイドライン（※）や近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。</p> <p>※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（平成23年3月、厚生労働省）、「保育所における食事の提供ガイドライン」（平成24年3月、厚生労働省）等</p>			
【授業の概要】			
子どもに対する栄養学の知識をきちんと理解し、子どもたちに望ましい食生活や食文化を伝える力や「食育」を通して家庭や地域への支援ができる力をつける			
【授業計画】			
<p>第 1回：栄養・食に関する基本的知識 自分の食習慣を知る（提出） 子どもの健康と食生活の現状の認識と問題となる食生活の対応について</p> <p>第 2回：子どもの健康と食生活で問題となる食生活の弊害と対応について</p> <p>第 3回：栄養・食に関する基本的知識：消化吸収の仕組みについて</p> <p>第 4回：栄養の基礎知識とたんぱく質の代謝とはたらきについて</p> <p>第 5回：栄養の基礎知識と糖質・脂質の代謝とはたらきについて</p> <p>第 6回：栄養の基礎知識とビタミン・ミネラルの代謝とはたらきについて</p> <p>第 7回：その他の栄養成分のはたらき 日本人の食事摂取基準の意義と活用（ライフステージ別） 望ましい食事の摂り方ツールの使い方と実践（提出）</p> <p>第 8回：子どもの発育・発達と栄養・食生活：乳幼児の咀嚼・味覚・消化吸収機能の発達</p> <p>第 9回：乳児期の栄養について 調乳DVD視聴</p> <p>第10回：幼児期の栄養について</p> <p>第11回：学童・思春期の栄養について</p> <p>第12回：食育の基本と実践：食育基本法や保育所・家庭における食育の推進について</p> <p>第13回：児童福祉施設における食に関する指針、給食の役割と食の安全について 食育媒体作成準備グループワーク</p> <p>第14回：特別な配慮を要する子どもの食と栄養：食物アレルギー 発熱 体調不良 他 アレルギーについてDVD視聴</p>			

第15回：食育媒体制作発表 グループで作成した食育媒体の発表（提出）

定期試験

【テキスト名・著者名・出版社名】

子どもの食と栄養 児玉浩子 他 編集・執筆 中山書店

【参考書・参考資料等】

【学生に対する評価】

1. レポート・・・課題への取り組み15%
2. グループワーク・・・共同作業や調査などのグループ活動への取り組み姿勢と発表30%
3. 定期試験・・・55%

【授業科目名】 保育内容・人間関係		【授業の種類】 演習	【担当教員名】 藤井 和子
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 集中（再履修者）	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 子どもの発達に即した人との関わり（自己、他者関係、集団など）を学び、領域「人間関係」について理解を深める。子どもが他の人と親しみ協力しあえるようになること、豊かな生活をするための自律心、自立性を育てる保育について学び、保育者として援助できるようになることを学ぶ。			
【授業の概要】 子どもは、身近な大人や仲間との遊びや活動を通して自分自身を表現し、様々な感情を経験しながら、人と関わるための望ましい行動や態度、ルールなどを学んでいく。乳幼児期の人間関係を育むための保育者の援助について考察する。			
【授業計画】			
第 1 回：講義のオリエンテーション	領域「人間関係」とは何か		
第 2 回：子どもを取り巻く現代的課題	現代社会の子どもを取り巻く今日的課題		
第 3 回：人間関係のねらいと内容	領域「人間関係」と他領域との関連		
第 4 回：人間関係の発達課題	幼児の発達と人間関係		
第 5 回：子どもの生活と人間関係	遊びのなかで育つ人間関係		
第 6 回：いざこざやトラブルの意味	幼児期の環境構成や人とのかかわり		
第 7 回：保育者に求められる援助の視点	保育者に求められている人間関係		
第 8 回：支援を要する子どもの理解について	特別な支援を必要とする子どもと他の子どもがともに育ち合うためのかかわり		
第 9 回：遊びの中で育つ人間関係	さまざまな人々との交流と幼・保・小の交流活動の実践		
第 10 回：人間関係を結ぶ援助のあり方	就学前の子どもの育ちを支える人間関係		
第 11 回：保護者との信頼関係	保育者と保護者の人間関係		
第 12 回：子育て支援の視点から	子育て支援活動や預かり保育における保育者の工夫や取り組み		
第 13 回：多文化保育と人間関係	異文化理解		
第 14 回：領域相互の関連性と保育展開	「人間関係」の指導計画		
第 15 回：まとめ	これまでの学びを振り返り、今後の課題を考える		
定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】 適宜、資料・プリントを配布する			
【参考書・参考資料等】 文部科学省「幼稚園教育要領解説」厚生労働省「保育所保育指針解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館			
【学生に対する評価】 定期試験（60%）小テスト（20%）提出物（20%）			

【授業科目名】 保育内容・言葉		【授業の種類】 演習	【担当教員名】 藤田 千波
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 1年後期	【必修・選択】 必修
<p>【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】</p> <p>全体目標</p> <p>領域「言葉」は、「経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う」ことを目指すものである。幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>(1) 領域「言葉」のねらいと内容</p> <p>一般目標：幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。</p> <p>到達目標：1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。</p> <p>2) 領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。</p> <p>3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。</p> <p>4) 領域「言葉」に関わる幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。</p> <p>(2) 保育内容の指導方法と保育の構想</p> <p>一般目標：幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>到達目標：1) 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。</p> <p>2) 領域「言葉」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。</p> <p>3) 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。</p> <p>4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。</p> <p>5) 領域「言葉」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</p> <p>【授業の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「言葉」の領域のねらいや内容について理解を深め保育者として適切な言葉の指導や援助の方法を学ぶ。</li> <li>・乳幼児がどのように言葉を獲得していくのかを知り、言葉の発生と発達の過程を年齢別に学ぶ。</li> <li>・毎回、授業最後、言葉遊びや絵本の読み聞かせ等、言葉に関する遊びを行っていき、教材を学ぶ。</li> </ul>			

【授業計画】

- 第 1回：保育における「言葉」とは：言葉をめぐるワークショップ  
第 2回：領域「言葉」と保育内容：保育内容を示す領域「言葉」のねらいや内容の考え方について  
第 3回：領域「言葉」と保育内容：乳幼児の言葉の発達と条件  
第 4回：領域「言葉」と保育内容：言葉の機能  
第 5回：言葉を育てる人的環境：言葉による伝えあいを育む援助  
第 6回：言葉を育てる文化的環境：子どもの文化とは何か、様々な文化に触れることの大切さ  
第 7回：児童文化財の特質と理解：子どもの発達や興味に応じた各文化財の活用  
第 8回：幼稚園・保育所での言葉の生活  
生活の中で言葉を育てる基礎と経験と言葉を豊かにすることとの関連  
第 9回：書き言葉への興味や関心：文字を読む前段階としての、文字に出会える環境構成について  
第10回：配慮を必要とする子どもの言葉：言葉の発達が気になる子どもの保育  
第11回：子どもの言葉を育む保育の実際：模擬保育に向けての教材研究  
第12回：子どもの言葉を育む保育の実際：指導案の作成  
第13回：子どもの言葉を育む保育の実際：模擬保育  
第14回：子どもの言葉を育む保育の実際：模擬保育の振り返り  
第15回：まとめ：子どもの言葉を育てる指導  
定期試験

【テキスト名・著者名・出版社名】

保育内容・言葉 榎沢 良彦、入江 礼子 建帛社

【参考書・参考資料等】

幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

【学生に対する評価】

定期試験(50%)、授業課題レポート(30%)、模擬保育(20%)

【授業科目名】 保育内容・表現 I		【授業の種類】 演習	【担当教員名】 大西 淳子
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 1年後期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】			
<p>全体目標</p> <p>幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>(1) 領域「表現」のねらいと内容</p> <p>一般目標：幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。</p> <p>到達目標：1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。</p> <p>2) 領域「表現」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。</p> <p>3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。</p> <p>4) 領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。</p> <p>(2) 保育内容の指導方法と保育の構想</p> <p>一般目標：幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>到達目標：1) 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。</p> <p>2) 領域「表現」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。</p> <p>3) 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。</p> <p>4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。</p> <p>5) 領域「表現」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</p>			
【授業の概要】			
<p>保育内容の各領域を総合的に捉え、幼児の発達に即し、保育内容の展開や指導法を学ぶ。五感や手足、身体の形や動き、音やリズム、ものの色や形、質感などを様々なツールを用いて表現する方法を学ぶ。また、幼児の活動を具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を見につけることを目標とする。</p>			
【授業計画】			
<p>第 1 回：領域「表現」のねらい及び内容について理解し、実際の幼児の表現する姿と関連付けていく。</p>			

- 第 2回：領域「表現」のねらい及び内容について、幼児の発達に応じて、具体的な場面をあげ、その指導方法を学ぶ。
- 第 3回：幼児の発達について理解し、表現活動が広がるような言葉かけ、関わり方を学ぶ。
- 第 4回：五感を使った総合的な表現活動（色や形、身体表現、音、リズム）を実践し、その活動の楽しさと留意点を考える。表現活動における情報機器、教材の活用法を理解し、実際に体験することを通してその留意点を考える。
- 第 5回：自然（光、影、風、雨、雷など）や自然物（葉、木の実、石など）、また四季の変化を感じる幼児の表現活動を広げ、その留意点を考える。
- 第 6回：身近な素材（新聞紙、紙コップ、ペットボトルなど）を生かした表現活動を実践し、素材の特徴や遊び方の留意点を考える。
- 第 7回：豊かな感性を育むための表現活動とは何か、人的環境、物的環境の両面から考える。保育者の関わり方について学ぶ。
- 第 8回：音楽素材（楽器等）の正しい使い方について学び、グループで歌唱、合唱発表会を企画する。情報機器、教材の活用法を理解し表現活動を実践するために、指導案をグループで作成する。
- 第 9回：グループで指導案を作成し音楽発表会のねらいを具体的に考えると共に様々な教材研究を行う。
- 第10回：音楽活動において子どもの発達に応じた内容を考え、グループで話し合い実際に体験することでアイデアを出し合う。
- 第11回：音楽発表（グループ発表）をし、「豊かな感性と表現」をテーマに、学生自身の模擬保育の振り返りをする。
- 第12回：素材を生かしてタオル人形を作成し、保育の場を想定して、グループで人形を使った保育を考える。表現活動における情報機器の活用法について事例を通して学ぶ。
- 第13回：グループで作成した指導案を実践し、総合的な表現活動と教材研究を深める。情報機器、教材の活用法について事例を通して学び、保育の構想に活用できるアイデアを考える。
- 第14回：グループで作成した指導案を実践し、模擬保育を行い、その振り返りをし、改善点を話し合う。
- 第15回：この授業で学んだ内容において、表現とは何か、また保育の場での表現活動と保育者の役割について考える。

#### 定期試験

【テキスト名・著者名・出版社名】

適宜プリントを配布

【参考書・参考資料等】

保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

【学生に対する評価】

定期試験（50％）、授業時のワークシート（50％）

（毎回配布されるワークプリントを授業終了時に提出すること）

【授業科目名】 乳児保育 I		【授業の種類】 講義	【担当教員名】 藤野 貴代子
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 1年前期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】			
<p>1. 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等について理解する。</p> <p>2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。</p> <p>3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。</p> <p>4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。 ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。</p>			
【授業の概要】			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児期に養育者や保育者の関わりから愛情を感じることで、人への信頼を寄せる気持ちにつながる。</li> <li>・乳児保育において信頼関係、愛着関係を築くことが、思春期において自分と他者を信頼することができ自己肯定感へと育つ。乳児の発達過程、関わり、保育内容を理解することで、保育者としての基本的姿勢を学ぶ。</li> </ul>			
【授業計画】			
<p>第 1 回：オリエンテーション（受講者に望むこと・受講上の注意点等）</p> <p>第 2 回：乳児保育の意義・目的 “愛されて育つ”とは “人を信頼するように育てる”とは</p> <p>第 4 回：保育所保育指針 保育所の基本原則 保育所の役割と保育の目標</p> <p>第 5 回：子どもの主体性と尊重と自己の育ち 乳児保育の基本的な考え方</p> <p>第 6 回：こどもの主体性の尊重と自己の育ち 養護に関する生命の保持と情緒の安定</p> <p>第 7 回：子どもに応じた関わり 子育ての現状と課題</p> <p>第 8 回：子どもの体験と学びの芽生え 育みたい資質・能力、幼児期の終わりにまでに育って欲しい姿</p> <p>第 9 回：乳児保育の現状と課題 障害のある子ども、外国籍家庭の支援、保護者支援</p> <p>第 10 回：乳児保育における生活・遊びの実際と援助 0歳児の発育・発達を踏まえた生活・遊びの援助と関わり</p> <p>第 11 回：乳児保育における生活・遊びの実際と援助 1から3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活・遊びの援助と関わり</p> <p>第 12 回：子ども同士の関わりとその援助 保育者との遊び、子ども同士の遊びの援助と関わり</p> <p>第 13 回：乳児保育における配慮 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮</p> <p>第 14 回：乳児保育における連携と協働 職員間・保護者・地域・関連機関等との連携</p> <p>第 15 回：まとめ 講義のまとめと今後の課題</p> <p>定期試験</p>			
【テキスト名・著者名・出版社名】			
乳児保育Ⅱ・尾野明美・小湊真衣・菊池篤子 萌文書林			
【参考書・参考資料等】			
保育所保育指針解説 幼保連携認定こども園教育・保育要領解説			
【学生に対する評価】			
・定期試験60% ・提出物40%			

【授業科目名】 子どもの健康と安全		【授業の種類】 演習	【担当教員名】 山階 真生
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 1年後期	【必修・選択】 必修
<p>【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。</li> <li>2. 関連するガイドライン（※）や近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。</li> <li>3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。</li> <li>4. 関連するガイドライン（※）や近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に理解する。</li> <li>5. 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドライン（※）や近年のデータ等に基づく、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解する。</li> <li>6. 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。</li> </ol> <p>※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（平成23年3月、厚生労働省）、「2018年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」（平成30年3月、厚生労働省）、「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」（平成28年3月、内閣府・文部科学省・厚生労働省）等</p>			
<p>【授業の概要】</p> <p>保健的観点を踏まえた保育環境や援助、保育における健康や安全の管理、その実施体制について理解する。子どもの体調不良等に対する適切な対応、感染症対策について理解する。保育における保健的対応について理解する。</p>			
<p>【授業計画】</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：子どもの健康と保育の環境</p> <p>第3回：母子保健 地域保健と保育</p> <p>第4回：健康教育</p> <p>第5回：子どもの身体計測と評価</p> <p>第6回：乳幼児の養護1</p> <p>第7回：乳幼児の養護2</p> <p>第8回：保育における衛生管理 事故防止策</p> <p>第9回：子どもと投薬</p> <p>第10回：救急処置および救急蘇生法</p> <p>第11回：保育における応急処置1</p> <p>第12回：保育における応急処置2</p>			

第13回：感染症とは 感染症発症の予防

第14回：個別配慮を必要とする子どもへの対応

第15回：保育における保健活動の計画および評価 家庭 専門機関との連携

定期試験

【テキスト名・著者名・出版社名】

7月頃に購入

【参考書・参考資料等】

【学生に対する評価】

定期試験 60% レポート 10% 提出物 15% 授業時のワークシート演習 15%

【授業科目名】 障害児保育		【授業の種類】 演習	【担当教員名】 吉田 しのぶ
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 1年前期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 多様な障害を理解し、すべての子どもが同じ空間で生活し、育ちあうための「個の育ち」と「集団の育ち」を意識した「共に育ちあう保育」についての理解を深める。			
【授業の概要】 障害について理解するとともに、子どもの特性を理解し、それぞれの子どもの最善の利益を考え、発達の状態や個性に応じた保育を創造し、具体的な場面を捉えた「共に育つ保育の在り方」の入門的な指導方法を習得する。			
【授業計画】 第 1回：「障害児保育とは何か」「オリエンテーション(受講者に望むこと・受講上の注意点等)」 第 2回：「障害児保育の仕組み・捉え方」 第 3回：「乳幼児期の発達課題と障害特性（愛着形成・運動発達・基本的生活習慣の確立・コミュニケーションなど）」 第 4回：「障害児保育の仕組み」「障害児保育の変遷・インクルーシブシステム・個別の支援計画」 第 5回：「知的障害の特性と保育での支援」 第 6回：「自閉症スペクトラム障害の特性と保育での支援」 第 7回：「ADHD-注意欠陥多動性障害と保育での支援」 第 8回：「ADHD-注意欠陥多動性障害の特性と二次障害」 第 9回：「LD-学習障害児の特性と保育での支援」 第10回：「PDD-広汎性発達障害の特性と保育での支援」 第11回：「視・聴・言語障害・肢体不自由の障害の特徴と保育での支援」 第12回：「インクルーシブ保育とは」「障害児を支える保育現場での支援体制」 第13回：「家族への支援」「障害児のアセスメント」「現場におけるアセスメント」 第14回：「発達支援の技法」「療育・早期教育プログラム・感覚統合訓練・TEACCHなど」 第15回：「小学校との連携」「地域の支援と今後の障害児保育の在り方」 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】 よくわかる障害児保育 尾崎康子・小林真他 ミネルヴァ書房			
【参考書・参考資料等】 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領			
【学生に対する評価】 定期試験 60% 提出物等 40%			

【授業科目名】 教育の方法と技術		【授業の種類】 講義	【担当教員名】 藤井和子・瀧波創造
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 1年後期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】			
<p>全体目標</p> <p>教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）では、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。</p> <p>(1) 教育の方法論</p> <p>一般目標：これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。</p> <p>到達目標：1) 教育方法の基礎的理論と実践を理解している。 2) これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解している。 3) 学級・幼児・教員・保育室・教材など保育を構成する基礎的な要件を理解している。 4) 育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価の基礎的な考え方を理解している。</p> <p>(2) 教員の技術</p> <p>一般目標：教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付ける。</p> <p>到達目標：1) 話法、板書など、授業・保育を行う上での基礎的な技術を身に付けている。 2) 基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容、教材・教具、授業・保育展開、学習形態、評価基準等の視点を含めた保育指導案を作成することができる。</p> <p>(3) 情報機器及び教材の活用</p> <p>一般目標：情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。</p> <p>到達目標：1) 子供たちの興味・関心を高めたり課題を明確につかませたり学習内容をふりかえったりするために、幼児の体験との関連を考慮しながら情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。 2) 子供たちの情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための指導法を理解している。</p>			
【授業の概要】			
<p>幼児教育現場における教育方法について理解を深め、実践的な指導技術を身に付け、情報機器および教材を教育・保育現場に効果的に活用できる力を養う。</p>			
授業計画			
第 1回：幼稚園教育要領における基本方針と保育方法（担当：藤井和子）			
第 2回：環境を通して行う教育（担当：藤井和子）			
第 3回：遊びを通しての総合的な指導（担当：藤井和子）			

- 第 4回：保育形態の種類と活用法（担当：藤井和子）
- 第 5回：保育方法についての理論 モンテッソーリ、シュタイナー、フレーベル（担当：藤井和子）
- 第 6回：児童中心主義教育について理解し、保育者の指導の在り方（保育の計画）について考える。  
（担当：藤井和子）
- 第 7回：見守る保育における保育者の援助の在り方（担当：藤井和子）
- 第 8回：導く保育における保育者の援助の在り方（担当：藤井和子）
- 第 9回：子ども同士のトラブルに対する、保育者の支援（担当：藤井和子）
- 第10回：子どもの遊びの発展と保育者の援助（担当：藤井和子）
- 第11回：生活の展開と保育者の援助（担当：藤井和子）
- 第12回：表現力のある文書 表現力を高める数々の機能、保護者便りの作成（担当：瀧波創造）
- 第13回：グループ研究（1）デジタル紙芝居の作成①ストーリー作成・ペイント（担当：瀧波創造）
- 第14回：グループ研究（2）デジタル紙芝居の作成② Powerpointの操作、画像データの作成  
（担当：瀧波創造）
- 第15回：まとめ デジタル紙芝居の発表（担当：藤井和子、瀧波創造）

定期試験

【テキスト名・著者名・出版社名】

使用しない 適宜プリントを配布する

【参考書・参考資料等】

文部科学省「幼稚園教育要領解説書」厚生労働省「保育所保育指針解説書」内閣府・文部科学省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書」フレーベル館

【学生に対する評価】

定期試験（60%）提出物（40%）

【授業科目名】 教育実習指導（教育実習Ⅰ）		【授業の種類】 演習	【担当教員名】 山本晴彦・藤田千波・吉田しのぶ 村田健治・藤井和子・藤野貴代子 多田智栄子・大西光恵・榎本優人
【授業の回数】 15回	【時間数】 40時間	【開講学年・時期】 1年通年	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育者としての専門性を身につけるために、実習の意義と目的、内容・方法について理解する</li> <li>・ 指導計画案の立て方について理解し、実践力を身につける</li> <li>・ 教材研究及びその活用法など、実習に対する知識・技術について身につける</li> </ul>			
【授業の概要】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育実習の基本を理解し、実習に必要な知識や、技能を学ぶ</li> <li>・ 指導計画案の立て方、教材研究法を学ぶ</li> <li>・ 事後指導では、実習で学んだことを振り返り、課題を明確にしていく</li> </ul>			
【授業計画】 第 1 回：教育実習Ⅰについて：オリエンテーション 教育実習の意義と目的の理解 第 2 回：幼稚園教育の基本：幼稚園教育要領の解説にもとづいて 第 3 回：幼稚園の一日を知る：幼稚園の一日を知る 実習記録の書き方について1 第 4 回：保育者を目指すあなたへ：見学実習の心構え、目的及びポイントについて 第 5 回：教材研究と実践：手遊びと歌遊び 第 6 回：見学実習の振り返り：見学実習を終えて感じたことや自己反省 実習記録の書き方について 第 7 回：幼稚園における実習生の活動：実習生としての活動の仕方を学ぶ、参加観察自習の心構えと注意点 第 8 回：教材研究と実践：絵本の読み聞かせ 第 9 回：指導案の作成：教育計画の意義、指導案作成の意義 第10回：教材研究と実践：リズム遊び 第11回：指導案の作成：指導案作成の実際1 第12回：教育実習前期振り返り：グループ討議と発表 第13回：教育実習後期に向けて：自己課題の明確化 第14回：教材研究と実践：集団遊び 第15回：教育実習後期振り返り：グループ討議と発表			
【テキスト名・著者名・出版社名】 保育指導案大百科事典・開 仁志・一藝社 保育所・施設・幼稚園実習ステップブック・みらい			
【参考書・参考資料等】 幼稚園教育要領・幼稚園教育要領解説書			
【学生に対する評価】 実習先の現場評価70% 提出物30%			

【授業科目名】 教育実習 I		【授業の種類】 実習	【担当教員名】 山本晴彦・藤田千波・吉田しのぶ 村田健治・藤井和子・藤野貴代子 多田智栄子・大西光恵・榎本優人
【授業の回数】	【時間数】 160時間	【開講学年・時期】 1年通年	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 1) 幼稚園教育要領及び幼児の実態を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。 2) 保育に必要な基礎技術(話法・保育形態・保育展開・環境構成など)を実地に即して身につけると共に、 幼児の体験と関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用することができる。 3) 学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解している。 4) 様々な活動の場面で適切に幼児と関わる事ができる。			
【授業の概要】 幼稚園での実習 実習園での指導のもとに、幼稚園における幼児とのふれあいや教師の援助を通して、様々な援助のあり方や教育的働きかけを学ぶ。 (1) 実習の目標 ①幼稚園について理解する。 ②幼稚園での一日の流れを理解し保育に参加し幼稚園教育の実際を学ぶ。 ③子どもとの関わりを通して幼児の発達を理解し、生活や遊びについての保育技術を習得する。 ④教育課程・指導計画を理解し、部分保育や設定保育を体験する。 ⑤教材準備・環境構成など幼稚園教諭の仕事内容を理解する。職員間のチームワークについて学ぶ。 ⑥幼児教育への意欲を高め保育者になることへの目標を確かなものにする。 ⑦教育活動のしくみや社会における幼児教育の役割について理解を深める。 (2) 実習の方法 隔週実習、集中実習については、段階的に見学・参加・指導実習を体験する。 1 見学・観察実習 実際に教育現場を観察し、幼児の実態把握や指導方法について理解する。 ②参加実習 観察実習で得た理解を基礎として教育活動に直接参加し、体験する中でより深い理解を得るもので担任教師の指導のもとに幼児と積極的な関わりを持つ。 ・生活面の援助及び指導について学習する。 ・いろいろな遊びの様子を知る。 ・一日の教育活動が、幼児の主体性と指導計画のもとに展開されている事を知る。 ・教師がどのように個人や集団に関わっているかを知る。 ③指導実習(責任実習) 担任教師の指導のもとに自ら指導計画を立案して、「部分保育」「設定保育」を体験し、保育の展開を学ぶ。			
【授業計画】 実習の日程			

[見学・隔週実習] (5月16日～12月5日のうち10日間+お泊り保育)

姉妹幼稚園3園に3グループに分かれて見学・隔週実習を行い、実際の指導について学習する。

[集中実習] (9月12日～9月27日 10日間+運動会)

姉妹幼稚園で連続10日間実習を行い、前期隔週で学んだ内容をもとに指導計画を立案し、指導実習を行う。

【学生に対する評価】

実習の評価は、現場評価70% 提出物30%

【授業科目名】 保育実習 I		【授業の種類】 実習	【担当教員名】 山本晴彦・藤田千波・吉田しのぶ 村田健治・藤井和子・藤野貴代子 多田智栄子・大西光恵・榎本優人
【授業の回数】	【時間数】 160時間	【開講学年・時期】 1年通年	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。</li> <li>2. 観察や子どものかかわりを通して子どもへの理解を深める。</li> <li>3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。</li> <li>4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。</li> <li>5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。</li> </ol>			
【授業の概要】			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. (保育所) 保育士資格取得にかかわる保育士課程必修の実習として、認可保育所において観察・参加実習を行う。また、保育所での実習を通じて、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能および保育士の職務について実践的に学ぶ。</li> <li>2. (施設) 保育士資格取得にかかわる保育士課程必修の実習として、児童福祉施設において観察・参加実習を行う。また、児童福祉施設での実習を通じて、利用者への理解を深めるとともに、施設の機能および施設職員の職務について実践的に学ぶ。</li> </ol>			
【授業計画】			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 集中実習(保育所) 7/30～9/5 のうち 10日間        &lt;保育所実習の内容&gt;       <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所の役割と機能           <ol style="list-style-type: none"> <li>①保育所の生活と一日の流れ</li> <li>②保育所保育指針の理解と保育の展開</li> </ol> </li> <li>2. 子ども理解           <ol style="list-style-type: none"> <li>①子どもの観察とその記録による理解</li> <li>②子どもの発達過程の理解</li> <li>③子どもへの援助やかかわり</li> </ol> </li> <li>3. 保育内容・保育環境           <ol style="list-style-type: none"> <li>①保育の計画に基づく保育内容</li> <li>②子どもの発達過程に応じた保育内容</li> <li>③子どもの生活や遊びと保育環境</li> <li>④子どもの健康と安全</li> </ol> </li> <li>4. 保育の計画、観察、記録           <ol style="list-style-type: none"> <li>①保育課程と指導計画の理解と活用</li> <li>②記録に基づく省察・自己評価</li> </ol> </li> <li>5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理           <ol style="list-style-type: none"> <li>①保育士の業務内容</li> <li>②職員間の役割分担や連携</li> <li>③保育士の役割と職業倫理</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>2. 集中実習(施設) 2/20～3/31 のうち 10日間        &lt;居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習の内容&gt;       <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設の役割と機能           <ol style="list-style-type: none"> <li>①施設の生活と一日の流れ</li> <li>②施設の役割と機能</li> </ol> </li> <li>2. 子ども理解           <ol style="list-style-type: none"> <li>①子どもの観察とその記録</li> <li>②個々の状態に応じた援助やかかわり</li> </ol> </li> </ol> </li> </ol>			

3. 養護内容・生活環境

- ①計画に基づく活動や援助      ②子どもの心身の状態に応じた対応  
③子どもの活動と生活の環境      ④健康管理、安全対策の理解

4. 計画と記録

- ①支援計画の理解と活用      ②記録に基づく省察・自己評価

5. 専門職としての保育士の役割と倫理

- ①保育士の業務内容      ②職員間の役割分担や連携      ③保育士の役割と職業倫理

【テキスト名・著者名・出版社名】

実習ステップブック 保育指導案大百科事典 保育実習Ⅰの手引き（保育所・施設）

【参考書・参考資料等】

『保育所保育指針解説』（厚生労働省）

【学生に対する評価】

実習先からの実習評価70%      提出物30%

【授業科目名】 保育実習指導 I		【授業の種類】 演習	【担当教員名】 山本晴彦・藤田千波・吉田しのぶ 村田健治・藤井和子・藤野貴代子 多田智栄子・大西光恵・榎本優人
【授業の回数】 30回	【時間数】 60時間	【開講学年・時期】 1年通年	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。			
【授業の概要】 ・実習における学びを有意義なものとするために、実習の意義・目的を理解するとともに、実習内容を理解する。 ・観察や記録の仕方、内容などについて学習する。 ・教材や教具の活用の仕方、保育技術を進める上での配慮点などを学習する。			
【授業計画】 第 1 回：保育実習の目的と意義    刈エンテション保育所における子どもの生活 第 2 回：教材研究と実践    手遊び・び歌遊び・集団遊び 第 3 回：教材研究と実践    身近なものを使った遊び 第 4 回：保育所の役割    保育所保育指針の理解 第 5 回：保育実習の手引きの理解    目的・実習内容・心構え 第 6 回：保育実習 I の基本理解    記録の書き方 第 7 回：保育実習 I の基本理解    目標の立て方 第 8 回：教材研究と実践    壁面装飾 第 9 回：保育所実習の振り返り    グループ討議 第 10 回：保育所実習の振り返り    グループ討議発表 第 11 回：施設実習の基本的認識    施設見学実習について 第 12 回：エピソードについて    エピソードをとらえて書くことの意味と書き方 第 13 回：エピソードについて    エピソード作成 第 14 回：教材研究と実践    歌唱指導 第 15 回：教材研究と実践    集団遊び 第 16 回：教材研究と実践    パネルシアターについてと作成 第 17 回：施設実習の基本的認識    施設見学実習について 第 18 回：指導計画について    指導計画と実践についての理解 第 19 回：グループワーク    設定保育を考える 第 20 回：グループワーク    指導計画の作成案の作成 第 21 回：グループワーク    指導案修正と事前準備 第 22 回：グループワーク    ロールプレイングの反省・課題・考察			

第23回：教材研究と実践 手作りおもちゃ  
第24回：教材研究と実践 幼児体操と触れ合い遊び  
第25回：保育実習Ⅰの基本理解 施設の役割と機能  
第26回：保育実習Ⅰの基本理解 実習記録の書き方  
第27回：施設実習について 実習課題の立て方  
第28回：施設における子どもの環境 施設における子どもの生活と関わり  
第29回：施設実習の手引きの理解 目的・自習内容・心構  
第30回：事後指導 実習の総括と自己評価・課題の明確化

【テキスト名・著者名・出版社名】

- ① 保育所・施設幼稚園実習ステップブック 山本美貴子・松山洋平 みらい
- ② 保育指導案大百科事典 開 仁志 一藝社

【参考書・参考資料等】

幼稚園教育要領・幼稚園教育要領解説 保育所保育指針・保育所保育指針解説  
幼保連携型認定こども園教育・保育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

【履修上の注意】

- ・上記の年間計画以外にも、実習指導や指導案の書き方について指導をしていく。
- ・科目の性質(保育実習実施の必須科目)上、特別な理由を除き、欠席は認められません。

【学生に対する評価】

- ・授業中に課する提出物・・・100%